

みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報

昭和57年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART



千葉県立美術館全景

目 次

ご あ い さ つ.....	1
沿 革.....	2
管 理 運 営.....	3
機 構.....	4
施 設.....	9
事 業 報 告.....	13
常 設 展.....	14
特 別 展.....	18
企 画 展.....	22
千葉県芸術祭.....	28
団 体 展.....	30
教育・普及.....	36
昭和57年度事業案内.....	46
利 用 状 況.....	48
日 誌 抄.....	49
関 係 令 規.....	50

ごあいさつ

このたび、千葉県立美術館の経営実績を主体にした年報を刊行し、関係者の皆様にお届けすることになりました。

本館は、昭和49年10月開館以来、関係各位の御協力・御支援により“みる・かたる・つくる”をモットーに、美の大衆化に努めてまいりました。

昭和57年度は、“みる”活動として、「絵地図の魅力」・「金工の世界」の特別展をはじめ、「嶋川誠一展」・「中西利雄展」及び「収蔵作品展」・「移動美術館」等の企画展を開催し、年間 157,095人の入館者を迎えることができました。

“かたる・つくる”活動としては、洋画・日本画を含む9種の実技講座を通して作品制作の喜びや楽しみを、また、美術の見方・考え方を深めるための美術館夏季大学や美術を語る会など、広く、多くの皆様に親しまれる開かれた美術館を目指して継続的に実施してまいりました。

一方、資料の収集については、地域に根ざした美術館を基本としながら、日本近代洋画の先駆者・浅井忠を軸に、近代美術史の宝庫を目指しており、調査・研究と相まって、千葉県美術品取得基金条例を活用して、収蔵作品の充実を図ってまいりました。

このように、地域の美術館としての活動も軌道に乗り、充実期を迎えようとしております。

なお、昭和58年度は開館10年目を迎え記念すべき年に当たりますので、更に飛躍しなければと考えております。

今後も、更に反省を加え、より充実した美の広場としての活動を推進していく所存ですので、関係機関・諸団体並びに、皆様のなお一層の御指導と御高配をお願いする次第であります。

昭和58年 4 月

千葉県立美術館長

高 橋 在 久

沿 革

概 要

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基き、建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務にあたった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月第2期工事の管理棟が完成した。

なお、千葉県の第5次総合5ヶ年計画により、第3期工事として、県民アトリエの建設に昭和54年3月27日着工、同55年2月29日竣工し、ここに当初建設計画は完了した。

運営方針

- 県民のための美術館として、明るく親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある作家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

昭和44年12月9日	第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)
昭和45年1月19日	県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される
昭和45年7月24日	建設地として千葉公園に内定する
昭和45年11月12日	第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)
昭和46年3月31日	千葉公園内の美術館基本構想なる
昭和46年6月24日	体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる 代案として千葉市中央港埋立地が提示される
昭和47年1月5日	建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する
昭和47年3月31日	基本設計完了する(株式会社大高建築設計事務所)
昭和47年7月31日	展示棟 第1期工事の実施設計完了する
昭和47年10月13日	展示棟建築工事請負契約議案可決される

昭和47年12月10日	展示棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
昭和48年4月1日	文化課に美術館準備班を置き、開館事務にあたる
昭和48年11月30日	管理棟 第2期工事の実施計画完了する
昭和49年3月31日	展示棟建築工事竣工
昭和49年4月1日	千葉県立美術館発足する職員14名
昭和49年10月23日	開館記念式典を行なう
昭和49年10月24日	開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める
昭和50年3月13日	管理棟建築工事請負契約議案可決される
昭和50年3月15日	管理棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
昭和51年2月15日	管理棟建築工事竣工
昭和51年3月2日	管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する
昭和51年6月7日	寄付によって、正面玄関に植栽を行なう
昭和52年3月12日	彫刻の屋外展示をはじめる
昭和52年4月10日	展示棟の一室に美術普及室を開設する
昭和53年1月18日	外構工事として、駐車場が拡張され、101台の収容となる
昭和53年2月21日	美術普及棟の準備会が発足する
昭和53年10月17日	債務負担行為によって美術普及棟建築予算がつく
昭和53年11月18日	浅井忠像 完成除幕式
昭和53年11月30日	美術普及棟実施設計完了する
昭和54年1月8日	美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する
昭和54年3月5日	県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される
昭和54年3月27日	県民アトリエ棟建築工事着工(監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)
昭和55年2月29日	県民アトリエ棟建築工事竣工
昭和55年3月16日	県民アトリエ棟完成記念講演会
昭和55年9月9日	県民アトリエ棟情報資料室を開設する

管 理 運 営

昭和49年10月開館以来、8年余を経過し、館の運営方針に基づき、美の広場として、“みる・かたる・つくる”活動を積極的に展開し、地域の美術館として重要な役割を果たしてきた。

また、県教育委員会は、教育施策の四本柱の一つに文化行政を位置づけ、「心豊かなうるおいのある生活と香り高い県民文化の創造をめざして」とし、芸術文化事業の拡充について、一層の推進を図っている。

このようにして、県民の芸術文化に対する関心も、近年その層を増していることもあり、更に利用の拡大に努めていきたい。

施設の面では、第3期工事で完成した県民アトリエ棟を最後に一応の整備が終り、現在では、建物の南側に面している敷地の整備を行うほか、収蔵用備品等を整備し設備内容の充実を期している。

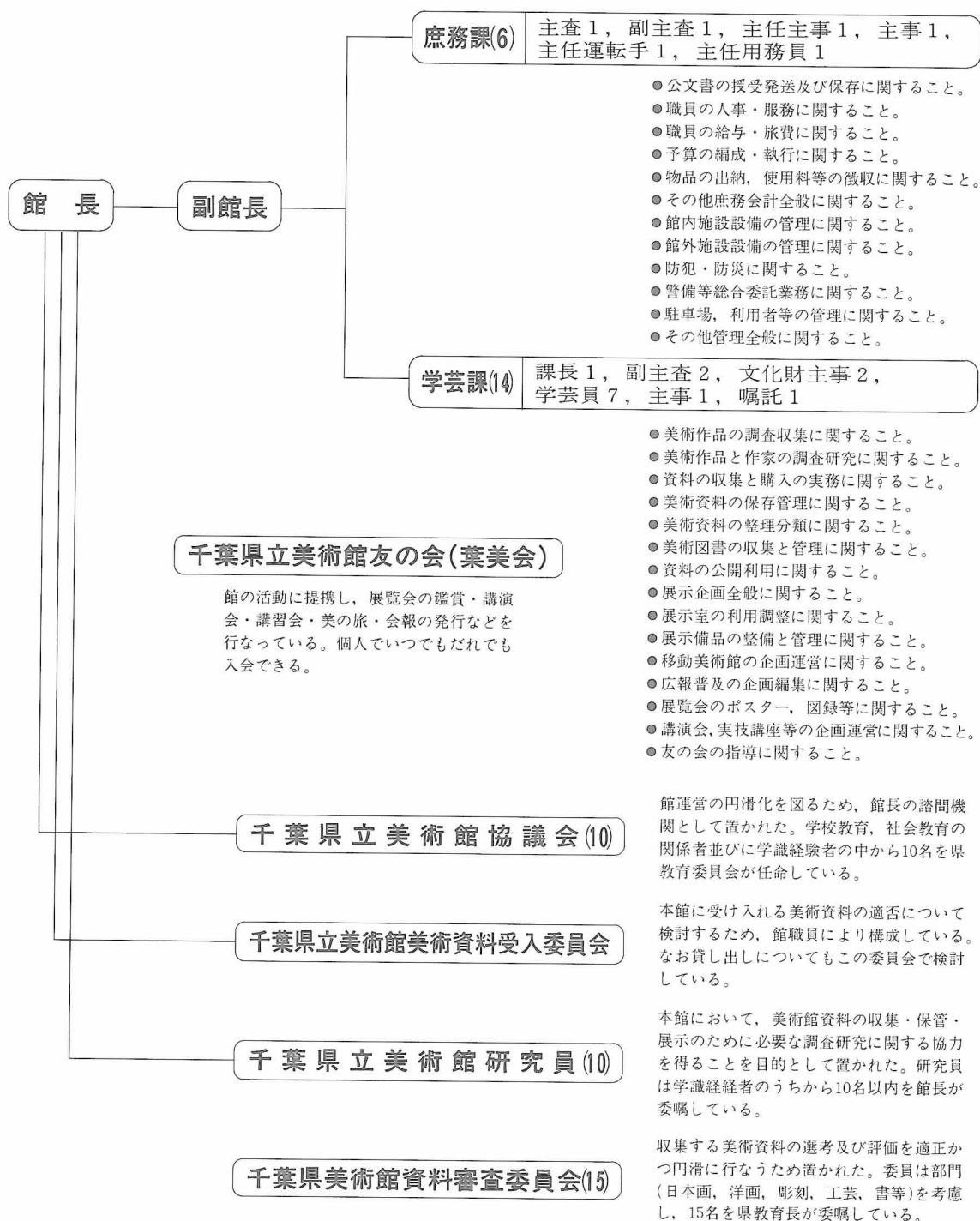
また、昭和55年2月に竣工した県民アトリエ棟では、つくる喜びと楽しみを味わえる創造の拠点として、各種の実技講座等の事業を展開し、県民にうるおいを与える場として活動が続けられている。

一方、資料収集についても、近代・現代の美術資料を中心とする美術館として、その収集に当たり、順調に充実が図られている。

このようにして、今後、更に調査研究を重ね、県民のための美術館として、明るく楽しい美の広場となるよう一層の努力をしていきたい。

機 構

組織および事務分掌（58.3.31現在）



職 員

館 長 高 橋 在 久
副 館 長 安 増 順

庶 務 課

主 査 内 山 昭 氏
副 主 査 田 辺 正 憲
主 任 主 事 菅 井 富 美 子
主 事 一 杉 徹
主任運転手 篠 原 恒 雄
主任用務員 長 島 則 子

学 芸 課

主査兼課長 高 橋 瑛
副主査(普及室長) 高 木 正
副 主 査 加 曾 利 和 夫
文化財主事 鈴 木 喜 久 夫
学 芸 員 小 野 禮 子
文化財主事 宮 内 速 男
学 芸 員 米 田 耕 司
" 大 久 保 守
" 藤 川 正 司
" 前 川 公 秀
主 事 武 内 喜 美 子
学 芸 員 山 内 章 子
" 小 泉 幸 代
非常勤嘱託 松 本 衛

千葉県立美術館協議会委員

氏 名	役 職
浅 見 喜 舟	千葉県美術会会長
足 立 堯	千葉県教育研究会造形教育部会長
石 母 田 権 兵 衛	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長
遠 藤 健 郎	画 家
郡 司 幹 雄	千葉県文化財保護審議会副会長
鈴 木 民 三	千葉県立美術館友の会会長
高 橋 恒 三	和洋女子大学常務理事
田 中 稜	美術評論家
野 口 貞 子	千葉市婦人グループ連絡会役員
牧 田 茂	白梅学園短期大学教授

(五十音順, 敬称略)

千葉県立美術館研究員

氏 名	役 職	氏 名	役 職
飯 田 能 弘	海上町立海上中学校教諭	香 取 義 春	佐原市立福田小学校教頭
池 田 伊 予	千葉市立末広中学校教諭	佐 藤 修	佐原市立佐原中学校教諭
石 倉 総 子	千葉市立花園中学校教諭	田 辺 宏	勝浦市立興津中学校教諭
岩 沢 いづみ	千葉市立さつきが丘中学校教諭	利 倉 栄 子	千葉市立天戸中学校教諭
大 木 貞 夫	八日市場市立須賀小学校教頭	原 田 久 徳	千葉市立新宿中学校教諭

(五十音順, 敬称略)

昭和57年度予算概要

(単位：千円)

事 業 名		予算額	事 業 概 要
運 営 費	展示事業費	16,889	特別展 2 事業 11,064 企画展 3 事業 4,995 常設一収蔵作品展事業 830
	普及事業費	3,420	実技講座・講演会の実施等 館報・年報・事業案内等の発行
	調査研究費	1,220	資料調査, 研究員会議等
	維持管理費	105,643	施設管理・設備保守委託 その他運営費
施 設 整 備 費	施設整備費	144,348	資 料 図 書 展示用備品 アトリエ備品購入 その他
	工 事 費	6,700	講堂補修工事
合 計		278,222,000円	

注) ○職員の人件費は含まず。

○別に資料購入のための基金(2億円)あり。

収蔵資料（昭和58年3月31日現在）

収蔵別内訳

種別	区分	保管換	購 入	寄 付	合 計
日 本 画		2 3	2 6	4 6	9 5
洋 画		3 5	1 5 8	2 6 0	4 5 3
彫 塑		1 0	2 4	1 4	4 8
工 芸		9	3 2	2 8	6 9
書		1 4	1 3	9	3 6
版 画		3	8 4	4 0	1 2 7
合 計		9 4	3 3 7	3 9 7	8 2 8

研究資料	7 3	1 2 7	1, 1 1 3	1, 3 1 3
教育資料	1 1 6	0	2 3 9	3 5 5
合 計	1 8 9	1 2 7	1, 3 5 2	1, 6 6 8

昭和57年度新収蔵作品一覧

日 本 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材 質・形 状	寸 法	受入方法
1	浅 井 忠	参 詣	明治35～40	絹 本・水 彩	29.0×39.0	購 入

洋 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材 質・形 状	寸 法	受入方法
1	浅 井 忠	藁 屋 根	明治20頃	キャンバス・油 彩	48.9×71.0	購 入
2	"	虎	明治35～40	紙・鉛 筆 着 彩	36.5×25.0	"
3	"	あ ひ る	不 詳	紙・墨	37.5×26.5	"
4	"	千 石 船	不 詳	紙・鉛 筆	17.4×23.0	"
5	"	民 家 (1)	不 詳	"	19.0×25.0	"
6	"	民 家 (2)	不 詳	"	21.5×14.5	"
7	"	手	不 詳	"	21.4×14.3	"
8	"	足	不 詳	"	21.4×14.3	"
9	"	野 菜	不 詳	"	18.2×36.0	"
10	"	船	明治35～40	"	11.2×17.5	"
11	"	西 洋 婦 人	明治33～35	"	12.0× 8.5	"
12	"	女 の 顔(模 写)	明治33～35	"	26.5×19.8	"
13	梅 原 龍三郎	竹 窓 読 書 図	昭和12	キャンバス・油 彩	80.0×65.0	"
14	ジャン・バティスト・カミーユ・コロドー	フォンテンブローの風景	1830～1835	"	50.0×59.0	"
15	石 井 柏 亭	安 倍 川	不 詳	"	38.0×45.5	"
16	田 中 善之助	初 秋 の 庭	昭和 7	"	50.0×72.0	"
17	伊 藤 快 彦	林 檣	昭和初期	"	65.2×91.0	"
18	堀 江 正 章	西 村 房 太 郎 像	不 詳	"	45.5×38.0	寄 付
19	"	西 村 房 太 郎 氏 祖 母 像	不 詳	"	45.5×37.5	"
20	中 西 利 雄	人 物	昭和11	キャンバス・水 彩	117.0×91.0	"
21	"	トリエール・シュール・セーヌ	昭和 5	紙・水 彩	54.5×69.5	"
22	"	南 仏 風 景	昭和 5	"	54.5×73.5	購 入

23	三 橋 兄弟治	ハ テ ィ バ の 城 壁	昭和56	紙 ・ 水 彩	112.2×145.5	購 入
24	高 山 道 雄	作 品 B	昭和39	キャンバス・油 彩	172.5×153.0	寄 付
25	氏 家 次 郎	海 辺	昭和46	キャンバス・油 彩	111.2×144.3	寄 付

書

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材 質・形 状	寸 法	受入方法
1	香 取 秀 真	日 の い づ る	不 詳	紙 ・ 墨 書	102.0× 27.0	寄 付

研究資料

番号	資 料 名			受入方法
1	浅 井 忠 資 料	絵 葉 書（塚本靖宛）	1 枚	購 入
2		〃 （浅井達三宛他）	1 1 枚	寄 付
3		日本画の写し 他	計 2 点	〃
4	浅 井 忠 関 係 資 料	絵 葉 書（浅井忠宛他）	7 9 2 枚	〃
5		縮図帳 他	計 7 点	〃
6	香 取 秀 真 資 料	卒業証書 他	計 3 点	〃
7	和 田 英 作 そ の 他 資 料	絵 葉 書	3 5 枚	購 入
8		ポ ス タ ー	5 枚	〃

昭和57年度千葉県美術品取得基金購入資料一覧

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材 質・形 状	寸 法
1	梅 原 龍三郎	皇 居	昭和55	キャンバス・油 彩	100.0×80.0

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手当時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下煤塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイル先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、珧器質タイルを型枠代にしてコンクリートと一体に打ち込む構法をもちいた。

今回使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚味にしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2.400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2.400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施工時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目標に行ない、ポンプにて打設可能な程度までスランブを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成してゆく。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロがしみ込んでゆき、目地からの滲透水を防ぎ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、ユニット型フィルター、活性炭フィルター、キャピラリーワッシャーの4種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給

されている。

展示棟はCAV(定風量型)+VAV(可変風量型)方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示室の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80.000lx以上、30%の時間が50.000lx以上、50%の時間が25.000lx(平均)以上、90%の時間が5.000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50.000lx(薄晴)から5.000lx(曇天)の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン(これは、計算値により鉛直面照度60.000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した)にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル(透過率53.6%)と黒地のジョーゼット(透過率35%)の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

【設計監理者】

建築：大高建築設計事務所

構造：木村俊彦構造設計事務所

設備：科学応用冷暖研究所

備品：大高建築設計事務所

【施工者】

建築：(株)竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業(株)，衛生＝第一管工事(株)，
電気＝関東電気工事(株)

備品：天童木工，山口木材，佐々木ブラインド

【設計期間】

基本設計：昭和46年11月～昭和47年1月

実施設計：1期展示棟＝昭和47年7月～昭和48年1月

2期管理棟＝昭和48年7月～昭和48年11月

3期県民アトリエ棟＝昭和53年9月～
昭和54年11月

【施工期間】

1期展示棟：昭和48年4月～昭和49年3月

2期管理棟：昭和50年4月～昭和51年2月

3期県民アトリエ：昭和54年3月～昭和55年2月

【階数】

地下1階，地上2階，塔屋1階建

【高さ】

基礎底まで：GL-5.00m，最高軒高GL+9.33，
最高高さ：GL+15.20m

【都市計画地域指定】

用途地域：準工業地域

【規模・面積】

敷地面積：33,057.87㎡，建築面積：7,641.9㎡，建
ぺい率：23.11%，延床面積：8,970.85㎡，展示棟＝
5,194.59㎡，管理棟＝2,274.60㎡，県民アトリエ棟
＝1,501.66㎡，駐車台数：101台

【構造】

主体構造：鉄筋コンクリート造（プレストレスト導
入），屋根：鉄骨造／主鋼材の種類：H型，山型，平
鋼＝S S 41および高張力鋼，P C鋼棒／コンクリ
ートの種類：A種・普通コンクリート（基礎・地中梁
・1階スラブ） $F_c=210\text{kg}/\text{cm}^2$ ，B種・軽量コンクリ
ート（梁・スラブ用・地上部） $F_c=300\text{kg}/\text{cm}^2$ ，C種
・軽量コンクリート（地上部躯体でA，B以外の梁
・壁など） $F_c=240\text{kg}/\text{cm}^2$

【外部仕上】

屋根：勾配屋根＝アスファルトルーフィング・コロ
シート，天然スレート3枚葺，陸屋根＝アスファル
ト防水，押えコンクリート，豆砂利打込み

外壁：煉瓦質タイル（先積ブリック打込工法）一部
コンクリート打放しおよび祈り仕上に撥水剤塗布
開口部：昭和鋼機(株)オーダーメイド自然発色サッ
シュ，一部型鋼グラファイト処理サッシュ，旭硝子
スーパーサンゴールド

【内部仕上】

玄関ホール・ロビー・第7展示室：床・巾木＝自然

石（北木島御影）円盤摺および本磨，壁＝コンクリ
ート砕り仕上げ，プラスター中塗下地塗装仕上げ，
天井＝岩綿吸音板 天井高＝2,300 4,200～13,500
展示室：床＝ビニールホモジニアスタイル，壁＝石
綿珪酸カルシウム，板下地クロス張り，塗装仕上げ
天井＝岩綿吸音板，塗装仕上げ 天井高＝3,600
3,240 4,500～6,100

事務室：床＝ビニールホモジニアスタイルおよびビ
ニールアスベストタイル，壁＝プラスター中塗下地
塗装仕上げ，天井＝岩綿吸音板塗装仕上げ，天井高
3,400

収蔵庫：床＝フローリングブロック，壁・天井＝米
杉 天井高＝3.400 館長・副館長室・応接室：＝じ
ゅうたん，壁＝突板練付け，天井＝岩綿吸音板 天
井高＝2,600

講堂：床＝置敷カーペット，一部マコレフローリン
グ，壁＝マコレ練付け，及びクロス張り，天井＝クロ
ス張り

ホール：床＝ビニールホモジニアスタイル

廊下：壁＝プラスター中塗下地塗装仕上げ

情報資料室：天井岩綿吸音板

事務室：床＝ビニールアスベストタイル，壁＝プラ
スター中塗下地塗装仕上げ，天井＝軟質石綿板

第1・第2アトリエ：床＝ビニールアスベストタイル，
壁＝コンクリート打放し下地補修の上塗装仕上
げ，天井＝軟質石綿板

研修室：床＝ビニールアスベストタイル，壁＝クロ
ス張り，天井＝岩綿吸音板

和室：床＝玄晶石水磨き，タタミ，檜家甲板，壁＝
京じゅらく塗，天井：杉柂ベニヤ目透シ，竿縁天井

【昇降機設備】

荷物用エレベーター（三菱エレベーター）：制御方
式＝交流2段速度歯車式，セレクトティブコレクティ
ブ(DWA)F操作方式，規模：容量3,000kg，カゴ
内法＝ $3,000\text{mm}\times 3,000\text{mm}\times 3,000\text{mm}$ ，速度＝30m/min，戸閉
型式＝電動式2板戸上下開き

【空調設備】

空調方式：展示棟＝CAV（定風量型）＋VAV（可
変風量型）方式；県民アトリエ棟＝各室ハンドリング
方式，管理棟＝VAV方式，保管庫＝露点再熱制御
方式

熱源：空気熱源スクリュウ熱回収ヒートポンプ方式

【衛生設備】

給水：ポンプ圧送方式，引込み管径75mm

排水：汚水・雑排水合流方式系統（管径300），雨水
系統（管径300）別，公設本管へ放流

【電気設備】

受電方式：交流 3相3線式6,000V 50Hz，電灯幹
線＝交流 単相3線式200V/100V 50Hz，分岐支流

＝单相 2 線式200V/100V 50Hz, 分力幹線および
分岐支流＝交流 3 相 3 線式200V 50Hz, 電話交
換方式：40回線クロスバー完全共通制御分散中継方
式, 契約容量：560Kw

【防災設備】

排煙方式：自然排煙, 機械排煙（第1,2,7展示室）
消火方式：屋外・屋内消火栓, 不燃性ガス消火設備
ハロゲン1301（電気室, 機械室, 収蔵庫1.2）
自家発電：ディーゼル機関直結交流発電機, 定格出
力100 kVA

【その他の設備】

防犯設備：ITVカメラ設備, 防犯警報装置, 調光放
送設備, 火災報知設備

工期及建設経費

第1期工事（展示棟）

工期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円

本 体 工 事	425,230千円
電 気 設 備 工 事	79,663千円
空 調 設 備 工 事	166,493千円
給排水衛生設備工事	28,995千円
外 構 工 事	67,705千円
ガ ス 工 事	7,881千円

第2期工事（管理棟）

工期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453,800千円

本 体 工 事	307,500千円
電 気 設 備 工 事	30,000千円
空 調 設 備 工 事	79,000千円
給排水衛生設備工事	19,514千円
外 構 工 事	17,786千円

第3期工事（県民アトリエ）

工期 昭和54年3月22日～昭和55年3月31日

工事費 370,000千円

本 体 工 事	248,758千円
基 礎 杭 打 工 事	16,542千円
空 調 設 備 工 事	56,200千円
電 気 設 備 工 事	35,000千円
給排水衛生設備工事	13,500千円

第4期工事

工期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円

外構工事	7,800千円
植栽工事	200千円

総工事費 1,607,767千円

展 示 棟

玄関ホール	102.40 m ²	厨 房	36.00 m ²	工 作 室	31.00 m ²
ク ロ ー ク	91.80 m ²	従業員控室等	17.28 m ²	発 電 機 室	25.00 m ²
倉 庫 A	2.70 m ²	食堂ホール	61.20 m ²	電 気 室	123.20 m ²
〃 B	2.70 m ²	ロ ビ ー	335.52 m ²	ポ ン プ 室	76.80 m ²
第一展示室	437.76 m ²	第一休憩室	23.04 m ²	機 械 室	305.20 m ²
〃 二 〃	400.32 m ²	〃 二 〃	23.04 m ²	高架水槽室	11.46 m ²
〃 三 〃	469.08 m ²	〃 三 〃	23.04 m ²	E. V機械室	27.28 m ²
〃 四 〃	403.20 m ²	便 所 A	30.24 m ²	E. V廻 り	54.56 m ²
〃 五 〃	824.19 m ²	〃 B	23.76 m ²	ダクトスペース	35.68 m ²
〃 六 〃	330.58 m ²	身障者用便所	7.92 m ²	廊 下 等	123.48 m ²
〃 七 〃	566.56 m ²	コントロール室	20.16 m ²		
食 堂	119.52 m ²	フィルター室	28.92 m ²	合 計 ①	5,194.59 m ²



管 理 棟

(1階)

第2会議室	22.62	m ²
更衣室	14.83	m ²
医務室	21.18	m ²
文書庫	22.02	m ²
警備員室	43.59	m ²
第一会議室	20.15	m ²
倉庫	7.19	m ²
湯沸室	5.19	m ²
便所	24.54	m ²
宿直室	34.20	m ²
物置	9.92	m ²
物務員室	31.83	m ²
審査室・資料準備室・荷解室	520.68	m ²
消毒室	31.79	m ²
資料倉庫	124.25	m ²
荷解梱包保管室	52.67	m ²
荷扱人控室	21.94	m ²
機械室	51.74	m ²
廊下等	123.52	m ²
小計	1,183.85	m ²

(2階)

館長室	33.27	m ²
副館長室	23.42	m ²
第一応接室	14.67	m ²
第二応接室	14.55	m ²
庶務課室	112.34	m ²
会議室	43.84	m ²
学芸課室	195.32	m ²
学芸相談室	23.91	m ²
研究工作室	216.49	m ²
写真スタジオ	54.30	m ²
器材室	6.74	m ²
暗室	12.19	m ²
第一収蔵庫	184.40	m ²
〃 二 〃	42.81	m ²
E・V前室	16.39	m ²
便所	21.50	m ²
湯沸室A	3.24	m ²
〃 B	6.87	m ²
廊下等	60.94	m ²
ダクトスペース	3.56	m ²
その他		
小計	1,090.75	m ²
合計②	2,274.60	m ²

県民アトリエ棟

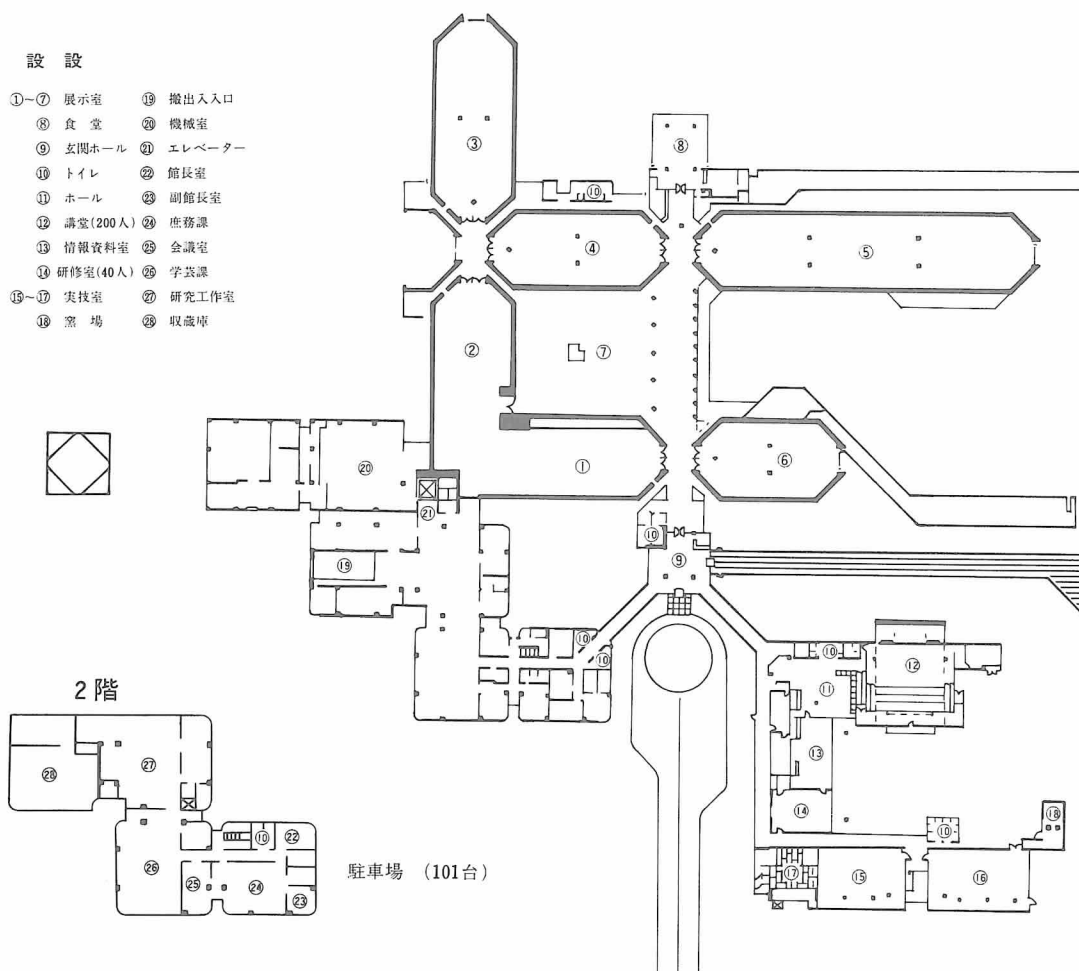
1F機械室	25.92	m ²
講堂倉庫	8.64	m ²
講堂	259.24	m ²
コントロール室	30.33	m ²
ホール側便所	29.97	m ²
情報資料室	172.77	m ²
同上倉庫	4.70	m ²
事務室	22.76	m ²
研修室	74.70	m ²
同上倉庫	4.23	m ²
第1アトリエ	155.70	m ²
第2アトリエ	184.31	m ²
第3アトリエ	95.47	m ²
アトリエ側便所	20.77	m ²
荷解室	25.65	m ²
窯場	27.17	m ²
同上倉庫	6.66	m ²
ホールその他	352.67	m ²

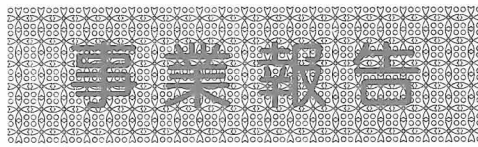
合 計 ③ 1,501.66 m²

総 合 計 8,970.85 m²
(①+②+③)

設 設

- ①～⑦ 展示室
- ⑧ 食堂
- ⑨ 玄関ホール
- ⑩ トイレ
- ⑪ ホール
- ⑫ 講堂(200人)
- ⑬ 情報資料室
- ⑭ 研修室(40人)
- ⑮～⑰ 実技室
- ⑱ 窯場
- ⑲ 搬出入入口
- ⑳ 機械室
- ㉑ エレベーター
- ㉒ 館長室
- ㉓ 副館長室
- ㉔ 庶務課
- ㉕ 会議室
- ㉖ 学芸課
- ㉗ 研究工作室
- ㉘ 収蔵庫





1 “みる”事業について

特別展として、秋に「絵地図の魅力」―バーズ・アイの視点から―を行い、地図屏風から現代のコンピュータによる地図まで、8部門により構成し、絵地図の発達と絵画との共通性や相互の影響を紹介し、近代日本画と洋画の発達の基礎的な流れの1つに絵地図製作が大きな役割を果たしていたことを理解鑑賞する機会とした。また、新春には「金工の世界」を開催し、日本の金工界の先駆者として、本県にゆかりの深い香取秀真、津田信夫をはじめ、日本の金工作家の作品を中心に展覧し、その技法にも触れながら多面的に紹介した。

企画展では、房総の美術家シリーズ(12)として一画業70年の回顧―「嶋川誠一展」を催し、氏の画業70年の軌跡をたどるとともにその魅力を探り理解を深めた。続いて、芸術運動の純粋化を唱えて、新制作派協会を結成するなど近代造形性に富んだ水彩画を生み出した「中西利雄展」を行った。第6回千葉県移動美術館は、佐倉市中央公民館と柏市中央公民館で開催し、地域の人々に美術鑑賞の機会を提供した。常設収蔵作品展は、本館所蔵の作品を四期に分けて行った。

2 “かたる”事業について

かたる事業としては、美術講演会を2回、美術を語る会を5回開催した。また、美術館夏季大学は、美術の歴史的な推移や多様化した現代美術の理解を深めるため、水彩画を含めた洋画の歴史と見方、楽しみ方等に焦点をあて開講した。

3 “つくる”事業について

つくる事業としては、「デッサン入門」、「洋画入門」、「日本画入門」、「彫塑入門」、「てん刻入門」、「七宝焼入門」、「陶芸入門」、「書芸入門」、「版画入門」と「洋画研修」、「書芸研修」の11種20講座を開講した。

4 資料収集について

公立美術館として、近代美術と現代美術の概況の正しい理解に資するため、千葉県美術品取得基金等を活用し、下記の基準により美術資料の取得に努め、その充実を図った。

- (ア) 浅井忠とその師弟や周辺の作家の作品
- (イ) 日本の近代美術や現代美術に足跡を残した、千葉県ゆかりの作家の作品及び千葉県にゆかりのある作品
- (ウ) 上記の(ア)と(イ)に関連し影響を与えた外国の作家の作品

常 設 展

常設 収蔵作品展

本年度常設展は、4期にわけて展示替えを行い、日本画、洋画、彫塑、工芸、書、版画の各分野にわたり、本館収蔵作品を広く公開した。特に今回は、本館で収集に力を入れている浅井忠とその周辺作家や水彩画のコーナーをはじめ、近代洋画の展開に功績のあった本県関係の作家を顕彰する房総の美術家コーナー、あるいは新収蔵作品コーナーなどを設けて展示の工夫を図った。

会 期 昭和57年4月27日～6月20日

展示点数 84点

入館者数 20,277人

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
浅井忠とその周辺作家		浅 井 忠	欧 州 市 場 風 景
ギュスターヴ・クールベ	雪 の 中 の 小 鹿	"	皇 太 子 馬 上 像
浅 井 忠	フ ォ ン テ ン ブ ロ ー の 森	安 井 曾 太 郎	デ ッ サ ン (裸 婦)
"	婦 人 像	長 谷 川 良 雄	晩 秋
"	老 母 像	加 藤 源 之 助	秋 の 山 (大和初瀬村)
松 岡 寿	森 と 小 川	中 林 儼	け し の 花
石 井 柏 亭	聖 フ ラ ン チ ェ ス コ 寺 院	田 中 善 之 助	山 門
安 井 曾 太 郎	熱 海 附 近	桜 井 忠 剛	バ ラ
間 部 時 雄	田 園 風 景	小 川 千 襲	港
都 鳥 英 喜	巴 里 郊 外 サ ン ク ル	榊 原 一 広	南 仏 風 景
沢 部 清 五 郎	ハ ド ソ ン 河 の 朝 霧	池 田 良 二	Scattered Seeds
黒 田 重 太 郎	女 と 小 犬	"	Nobody knows my mind
霜 鳥 之 彦	秋 果	飯 田 美 郎	緑 陰
浅 井 忠	ラ イ オ ン の 像 (彫 塑)	信 田 洋	装 瓶 (六 文 銭)
"	お 福 の 像 (")	"	乳 装 銀 瓶
"	農 婦 像 (")	"	金 彩 壺
"	揚 子 挿 (工 芸)	"	金 冠 銅 瓶
"	向 付 皿 (")	房総の美術家	
"	花 瓶 (")	原 勝 郎	モ ン マ ル ト ル
"	茶 器 (猿 蟹 合 戦) (")	"	街 灯 の ある 風 景
"	風 俗 図 (人 足 図) (研 究 資 料)	"	コ ー ヒ ー ひ き
"	風 俗 図 (よ め い り 図) (")	"	森 (A)
"	夕 顔 の 図 (")	"	京 橋
"	も ろ こ し の 図 (")	"	デ ッ サ ン
"	図 案 画 稿 (戸 棚 図) (")	"	デ ッ サ ン
"	図 案 画 稿 (魚 の 図) (")	石 橋 武 治	筑 波 遠 望
"	図 案 画 稿 (花 木) (")	"	白 鷺 の い る 風 景
"	図 案 画 稿 (女 神 図) (")	"	水 辺
"	図 案 画 稿 (風 俗 図) (")	"	少 年
"	図 案 画 稿 (モ ロ コ シ の 図) (")	日 本 画	
新収蔵作品		東 山 魁 夷	門 幽
カミーユ・コロー	フ ォ ン テ ン ブ ロ ー の 風 景	田 岡 春 徑	滝 夜
浅 井 忠	薬 屋 根	関 主 税	
梅 原 龍 三 郎	竹 窓 読 書 図	渡 辺 学	
浅 井 真	梅 林	洋 画	
"	新 緑 の 雑 木 林	古 井 洵	黒 の 浄 土 (赤)
不 破 章	二 女	溝 口 七 生	高 原 の 樹 々
白 滝 幾 之 助	伊 国 ナ ポ リ	久 保 木 彦	夢 の 詩

松 沢 茂 雄	海 辺 の 裸 婦
石 井 武 夫	D U M M Y
高橋 規矩治郎	漁 船
原 三 郎	廃 船
篠 崎 輝 夫	絵 馬 に よ る
鰐 嘸	A n g e l e s
彫 塑	

小 倉 惣次郎	伊 藤 博 文 像
荒 居 徳 亮	女 性 マ ス ク
大須賀 力	倚 する
神 野 義 衛	
郡 司 和 男	天 呻 使
"	詩 人 の 肖 像
綿 引 司 郎	遙

会 期 昭和57年6月22日～9月5日
 展示点数 81点
 入館者数 23,637人

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名
浅井忠とその周辺作家	
ギュスターヴ・クールベ	雪 の 中 の 小 鹿
浅 井 忠	奈 良 郊 外
"	婦 人 像
"	老 母 像
松 岡 寿	森 と 小 川
間 部 時 雄	田 園 風 景
都 鳥 英 喜	巴 里 郊 外 サン クール
沢 部 清五郎	ハ ド ソ ン 河 の 朝 靄
黒 田 重太郎	女 と 小 犬
霜 鳥 之 彦	秋 果
石 井 柏 亭	信 州 風 景
浅 井 真	新 緑 の 雑 木 林
浅 井 忠	ラ イ オ ン の 像(彫塑)
"	お 福 の 像(")
"	農 婦 像(")
"	揚 子 挿(工芸)
"	向 付 皿(")
"	花 瓶(")
"	茶 器(猿蟹合戦)(")
"	亀 の 図(研究資料)
"	羊 の 図(")
"	餓 鬼 図(")
"	図案画稿(春日野花瓶)(")
"	図案画稿(溪流)(")
"	図案画稿(鉢の図)(")
"	図案画稿(煙草入れ)(")

水 彩 画

石 井 柏 亭	舟 に 居 る 人
白 滝 幾之助	伊 国 ア シ シ
不 破 章	裁 縫 女
小 堀 進	真 夏 の 海 (太 海)
"	高 原
"	山

新収蔵作品

浅 見 錦 龍	蘭 亭 序
田 中 志奈子	デ ッ サ ン (裸 婦)
"	デ ッ サ ン (神 官)
伊 藤 快 彦	林 檎
神 原 一 広	収 穫

作 家 名	作 品 名
田 中 善之助	初 秋 の 庭
"	パ リ の 女
白 滝 幾之助	テ ー ム ス 河
飯 田 美 郎	緑 陰
信 田 洋	装 瓶 (六 文 銭)
"	乳 装 銀 瓶
"	銀 瓶 (マーキュリー)
"	金 冠 銅 瓶
カミーユ・コロロー	フ ォ ン テ ン プ ロ ー の 風 景
梅 原 龍三郎	竹 窓 読 書 図
石 井 柏 亭	安 倍 川
浅 井 忠	薬 屋 根
"	種 ま き の 図

房総の美術家

原 勝 郎	モ ン マ ル ト ル
"	街 灯 の ある 風 景
"	コ ー ヒ ー ひ き
"	森 (A)
"	京 橋
"	デ ッ サ ン
"	デ ッ サ ン
石 橋 武 治	筑 波 遠 望
"	白 鷺 の いる 風 景
"	水 辺
"	少 年

日 本 画

富 取 風 堂	群 魚
松 尾 敏 男	野
立 石 春 美	狗
島 多 訥 郎	秋 趣

洋 画

古 井 洵	黒 の 浄 土 (赤)
溝 口 七 生	高 原 の 樹 々
久保木 彦	夢 の 詩
松 沢 茂 雄	海 辺 の 裸 婦
石 井 武 夫	D U M M Y
高橋 規矩治郎	漁 船
原 三 郎	廃 船
篠 崎 輝 夫	絵 馬 に よ る
鰐 嘸	A n g e l e s

彫	塑					神	野	義	衛		呻	
小	倉	惣次郎	伊	藤	博文	郡	司	和	男	天		使
荒	居	徳亮	女	性	マ					詩	人	肖
大	須	賀力	倚		ス	綿	引	司	郎		遙	像

会 期 昭和57年12月3日～昭和58年1月16日
 展示点数 85点
 入館者数 13,977人

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
浅井忠とその周辺作家		日 本 画	
ギュスターヴ・クールベ	雪 の 中 の 小 鹿	東 山 魁 夷	秋
カミーユ・コロー	フォンテンブローの風景	〃	門
アントニオ・フォンタネージ	神 女 の 図	加倉井 和 夫	穀
浅 井 忠	農 婦	高 畑 郁 子	メ ス テ ィ ー ソ の 女 達
都 鳥 英 喜	八 瀬 の 秋	洋 画	
石 井 柏 亭	安 倍 川	林 俊 衛	岩 和 田 海 岸
梅 原 龍三郎	竹 窓 読 書 図	笹 岡 了 一	放 蕩 息 子 の 帰 宅
長谷川 良 雄	晩 秋	鳩 川 誠 一	星
加 藤 源之助	秋 の 山 (大和初瀬村)	桜 田 精 一	冬 の 並 木 道
中 林 儼	冬 の 風 景	山 谷 鎧 一	風
田 中 志奈子	デ ッ サ ン (棒をもつ裸体)	遠 藤 健 郎	朝 花
〃	デ ッ サ ン (太原女)	榎 本 了 三	市 籠
伊 藤 快 彦	林 檜	版 画	
桜 井 忠 剛	バ ラ	浜 口 陽 三	緑 の ぶ ど う
田 中 善之助	バ リ の 女	〃	て ん と う 虫
樋 原 一 広	南 仏 風 景	〃	赤 い 鉢
小 川 千 襲	港	〃	う さ ぎ
霜 鳥 之 彦	緑 の ス ウ ェ ー タ ー	〃	毛 糸
沢 部 清五郎	バ リ 風 景	星 裏 一	雪 の 玉 A
安 井 曾太郎	デ ッ サ ン (裸 婦)	〃	風 景 A 一 星 月 夜
〃	デ ッ サ ン (裸 婦)	〃	星 の 森 (大)
〃	デ ッ サ ン (裸 婦)	〃	枝 繁 る (赤)
〃	デ ッ サ ン (少女のいる風景)	深 沢 幸 雄	神 話
〃	デ ッ サ ン (少 女)	〃	愛 憎
黒 田 重太郎	浴 後	〃	白 い 光 の 塔 (グワテマラ)
水 彩 画		工 芸	
石 井 柏 亭	舞 姫	藤 田 喬 平	飾 宮 朱 雀
白 滝 幾之助	エ ジ プ ト	信 田 洋	黒 孔 雀 の 瓶
〃	伊 国 ナ ポ リ	〃	立 姿 の 瓶
不 破 章	三 人 姉 妹	土 肥 満	向 い あ う 単 体
〃	奥 鬼 怒 の 湯 治 場	佐 治 賢 使	苑
中 西 利 雄	外 房 風 景	小 林 正 利	祈 り (啓蟄)
〃	曇 り 日 の 離 宮 と 駅	彫 塑	
小 堀 進	冬 晴 れ の 果 樹 園	長谷川 昂	釈 迦
〃	南 欧 の 丘	〃	舎 利 弗
房総の美術家		〃	目 犍 連
椿 貞 雄	八 重 子 像	〃	大 迦 葉
〃	春 夏 秋 冬 図 屏 風 (春)	〃	須 菩 提
〃	黒 壺 に 椿 一 輪	〃	富 楼 那
〃	鋸 山 から 見た 房 総 半 島	〃	迦 旃 延
〃	水 彩 画 家 (渡辺義一君像)	〃	阿 那 律
〃	山 茶 花 図	〃	優 婆 羅

長谷川	昂	羅	瞰	羅	小	暮	青	風	天			感
書	〃	阿		難	金	子	聰	松	視	思		明
大	隆	待		君	浅	見	錦	龍	良	寛	の	詩
石	子				石	井	雙	石	林	鳥	忘	人

会 期 昭和58年 3 月 2 日～ 3 月31 日
 展示点数 76点
 入館者数 13,500 人

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
浅井忠とその周辺作家		三 田 康	墟 祭
浅 井 忠	薬 屋 根	鳩 川 誠 一	星 の 並 木 道
〃	農 婦	桜 田 精 一	冬 の 風
都 鳥 英 喜	八 瀬 の 秋	山 谷 鎧 一	
石 井 柏 亭	安 倍 川	遠 藤 健 郎	朝 花
梅 原 龍三郎	竹 窓 読 書 図	榎 本 了 三	
長谷川 良 雄	高 等 工 芸 学 校 西 裏 通	版 画	
田 中 善之助	聖 護 院 の 裏	瑛	九
中 林 儼	山 中 湖 附 近	〃	
田 中 志奈子	デ ッ サ ン (裸 体)	〃	
〃	デ ッ サ ン (箒をもつ女)	池 田 満寿夫	
伊 藤 快 彦	林 檜	〃	
桜 井 忠 剛	バ ラ	〃	
田 中 善之助	バ リ の 女	池 田 良 二	
神 原 一 広	南 仏 風 景	〃	
小 川 千 襲	港	〃	
霜 鳥 之 彦	緑 の ス ウ ェ ー タ ー	工 芸	
沢 部 清五郎	バ リ 風 景	藤 田 喬 平	
水彩画		信 田 洋	
白 滝 幾之助	海	〃	
〃	伊 国 ア シ シ	〃	
石 井 柏 亭	晩 春 行 楽 図	土 肥 満	
不 破 章	ノ ル マ ン ジ ー の ホ テ ル	佐 治 賢 使	
〃	麗 日 新 宿 御 苑	小 林 正 利	
中 西 利 雄	四 人 の 女	彫 塑	
小 堀 進	レ マ ン 湖 畔	長谷川 昂	
〃	雨 後 の 山 (信 州)	〃	
〃	花 と 海	〃	
房総の美術家		〃	
椿 貞 雄	八 重 子 像	〃	
〃	春 夏 秋 冬 図 屏 風(春)	〃	
〃	黒 壺 に 椿 一 輪	〃	
〃	鋸 山 から 見た 房 総 半 島	〃	
〃	水 彩 画 家(渡 辺 義 一 君 像)	〃	
〃	か れ い	〃	
〃	お こ ぜ	〃	
日本画		書	
東 山 魁 夷	春 雪	大 石 隆 子	待 天 視
岩 崎 巴 人	海 流 の 中 に 立 つ 裸 女	小 暮 青 風	蘭 鳥 相 忘 不 避
若 木 山 観	池 の 春 杉	金 子 聰 錦 龍 石	
古 城 江	山 と	浅 見 井	
洋画		石	
林 俊 衛	岩 和 田 海 岸		

特 別 展

絵地図の魅力

ーバース・アイの視点からー

会 期 昭和57年 9月11日～10月13日

展示点数 127点

入館者数 4,175人

人間の地理的世界観の記録である絵地図は、未知への好奇心を促し、新しい知識を求める上で大きな役割を果たしてきた。地図の余白の表現にしても未知の土地の風俗や月の満ち欠けなどを装飾的に配するなどして、単なる実用の範囲を越えて、絵画性、装飾性の豊かな独特の美の世界を形成してきた。

絵地図には実用の目的から発展して、けん爛豪華な装飾美術の世界を切り開いたもの、まわりの世界を客観的に、正確に記録しようとしたもの、その頂点としての伊能忠敬の実測図、浮世絵版画や洋風版画の流れの印刷されたものなどさまざまな表現形式があるが、山水画、風景画との間でも関連性が深く、鳥瞰図法、版画技法等の絵画表現上の連続性が認められる。

この展覧会では、主として絵地図の表現の魅力を、その絵画性、装飾性に焦点をあて、多様な発展をした美の世界を探ろうとしたものである。



出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
地図屏風		橋 本 宗 吉	喝 蘭 新 訊 地 球 全 図
	世界図日本図屏風	高 橋 景 保	新鐫総界全図日本境界略図
	世界図日本図万国人物図屏風	重 臣 堂 田 善	新 訂 万 国 全 図
	瀬戸内海航路図屏風	高橋景保・間重富・重臣堂田善	地 球 全 図 略 説
古地図・絵図		司 馬 江 漢	地 球 万 国 全 図
ブラウ	ブラウの世界図(地球古図)	嶺田楓江・橋本貞秀	地 球 万 国 全 図 説
オルテリウス	銅 版 日 本 地 図	長久保 赤水	地 球 万 国 海 山 輿 地 全 図 説
	行基菩薩説大日本国図	〃	地 球 万 国 海 山 輿 地 全 図 説
	幕府撰正保日本図	佐 藤 政 養	新 刊 輿 地 全 図
中 林 吉 兵 衛	扶 桑 国 之 図	シーボルト	シーボルトの日本図
石 川 流 宣	本 朝 図 鑑 綱 目	松本保居(初代玄々堂)	銅 鐫 日 本 輿 地 細 図
〃	日 本 大 絵 図	白 井 通 気	新 訂 万 国 全 図
〃	日 本 海 山 潮 陸 図	橋 本 貞 秀	御 開 港 横 浜 全 大 絵 図
長久保 赤水	改正日本輿地路程全図		御 開 港 横 浜 正 景
道 中 奉 行	東 海 道 分 間 延 絵 図	伊能図	
〃	水戸佐倉道分間延絵図	伊能忠敬作大日本沿海実測全図(中図)(写)(8枚)	
〃	関宿多功道見取絵図		
鎌 田 醉 翁	名所景画入駅路程改正大日本道中細見図	① 蝦 夷	
富 永 晋 斎	安政新版大日本行程大絵図	② 北 海 道	
秋 山 永 年	大日本東北行程全図(東北十五州之図)	③ 奥 羽	
東 条 信 耕	富士見十三州輿地之全図	④ 関 東	
	増訂伊豆七島全図附無人島八十与図相模房絵海岸図	⑤ 中 部	
	伊豆相模武蔵安房上総下総海岸御固泰平鑑	⑥ 中 国 四 国	
司 馬 江 漢	地 球 全 図	⑦ 九 州 北 部	
		⑧ 九 州 南 部	
		◎琵琶湖図(特製図)	
		伊 能 忠 敬	

作 家 名	作 品 名
伊 能 忠 敬	◎安芸国厳島図(特製図)
"	◎天 橋 立 図(特製図)
"	◎佐渡国沿海全図(大図)
伊能忠敬と横山大観	
酒 井 喜 照	関八州輿地路程全図
酒 井 彪 三	大日本一統輿地分国図 下総国全図(時習義塾蔵版)
"	大日本一統輿地分国図 安房上総両国全図(")
酒 井 捨 彦	上 総 国 全 図
"	改 正 銅 鐫 下 総 国 全 図
結 城 正 明	千葉県管内実測全図(千葉県蔵版)
"	矢 矧 橋
横 山 大 観	月 出 岐 兮

絵図(鳥瞰図・真景図)

鍛 形 蕙 斎 (北尾政美)	日 本 一 覧 図(日本鳥瞰図)
鍛 形 蕙 斎	新刻改正東海道細見大絵図
葛 飾 北 斎	総 房 海 陸 勝 景 奇 覧
安 藤 広 重	東 都 名 所 飛 鳥 山 全 図
"	東 都 名 所 両 国 回 向 院 境 内 図
"	武 相 名 所 手 鑑 は こ ね 塔 之 沢
一 曜 斎 国 輝	越 後 国 上 杉 景 勝 家 督 争 合 戦
"	上 総 よ り 下 総 海 辺 富 士 遠 望
孟 斎 芳 虎	大日本六十余州之内越後名所一覧之図
橋 本 貞 秀	大日本国郡名所下総印旛郡佐倉
"	利 根 川 東 岸 一 覧
"	奥 羽 三 景 之 内 米 沢
"	京 都 一 覧 図 画
"	常 陸 野 州 道 中 細 見 記
円 山 応 挙	淀 川 両 岸 図 巻
"	淀 川 両 岸 図 巻 画 稿
"	浪 花 大 湊 図
春 木 南 湖	総 常 日 記
谷 文 晁	那 須 眺 望 図
藤 堂 凌 雲	利 根 川 名 所 勝 景 図 絵
司 馬 江 漢	銚 子 真 景 影 巻
亜 欧 堂 田 善	江 の 島 富 士 遠 望 図
"	江 戸 城 辺 風 景 図
"	江 戸 街 頭 風 景 図

地図の工芸品

東 海 道 一 覧 扇
伊万里焼地図皿日本図波形隅丸方形
伊万里焼地図皿日本図波形隅丸方形
伝九谷焼地図皿日本図隅切方形
源内焼地図皿南北アメリカ大陸図花卉形(三彩)

房総関係絵地図

	下総上総安房相模海陸里程図(写)
鶴 峰 彦一郎	安 房 国 全 図
	房 州 図 (日本寺蔵版)
馬 来 田 真 人 勝 興	上 総 国 全 図

作 家 名	作 品 名
上 総 九 郡 細 見 絵 図	
下 総 国 輿 地 全 図	
佐倉城下之図(一分一間佐倉絵図)	
上 総 久 留 里 絵 図	
上 総 国 周 准 郡 富 津 村 絵 図	
香 取 神 宮 境 内 図	
下 総 成 田 山 境 内 全 図	
"	同 上 銅 版 原 板
"	下 総 大 観 八 景 之 図
"	香取神苑さくらのばばかとのうら眺望之図
神 作 有 智	安 房 富 山 真 景 全 図
伊 達 房 次 郎	房 州 鏡 ヶ 浦 八 景 (福満寺蔵版)
赤 松 宗 旦	利 根 川 図 志
本 屋 又 助	新版下総成田桃子香取常陸鹿島息栖略図

戦前の県内市町村鳥瞰図

松 井 天 山	千 葉 県 木 更 津 町 鳥 瞰
"	千 葉 県 勝 浦 町 鳥 瞰
"	千 葉 県 大 多 喜 町 鳥 瞰
"	千 葉 県 大 原 町 鳥 瞰
"	千 葉 県 本 納 町 鳥 瞰
"	千 葉 県 茂 原 町 鳥 瞰
"	千 葉 県 一 宮 町 鳥 瞰
"	千 葉 県 東 金 町 鳥 瞰
"	千 葉 県 検 見 川 町 鳥 瞰 図
"	千 葉 県 幕 張 町 鳥 瞰 図
"	千 葉 市 街 鳥 瞰
"	千 葉 県 津 田 沼 町 鳥 瞰
"	千 葉 県 市 川 町 鳥 瞰
"	千 葉 県 中 山 町 及 葛 飾 村 鳥 瞰
"	千 葉 県 八 幡 町 鳥 瞰 図
"	千 葉 県 船 橋 町 鳥 瞰 図
"	千 葉 県 松 戸 町 及 明 村 鳥 瞰
"	千 葉 県 松 戸 町 鳥 瞰 図
"	千 葉 県 佐 倉 町 鳥 瞰
"	開基老千年記念千葉県成田町成田山新勝寺鳥瞰図
"	千 葉 県 八 街 町 鳥 瞰
"	千 葉 県 四 街 道 駅 鳥 瞰
"	千 葉 県 佐 原 町 鳥 瞰
"	千 葉 県 多 古 町 鳥 瞰 図
"	千 葉 県 八 日 市 葉 町 鳥 瞰

◎重要文化財

講 演 会	9 月 26 日 「名所と絵地図」 朝倉治彦氏
美 術 を 語 る 会	10 月 9 日 「絵地図の世界ー橋本貞秀をめぐってー」 森田保氏
印 刷 物	図 録 24.0cm×25.0cm 1,000部
	ポスター 72.8cm×51.5cm 1,000枚
	目 録 B 5 20,000枚

金工の世界

会 期 昭和58年1月21日～2月24日
 展示点数 113点
 入館者数 5,998人

金工は古来、仏教器物、あるいは武具や茶道具、文具などの需要と共に、その技術が開発され、発展してきた。

明治の文明開化期を迎えた金工界は、急激な社会改革の影響を受け、その活動は一時期停滞したが、明治の後半期には日本内外の美術の研究などが反映し、新時代に即した美術工芸への気運が高まった。こうして、種々の金工研究団体が誕生し、帝展への工芸部設置なども拍車となり、金工は時代と共にさまざまな傾向を示しながら向上発展し、技術的にも意匠的にも多様化し、工芸の枠にとらわれない新しい造形も見受けられるようになった。

この展覧会では、主として金工技術と近代以降の作家に焦点をあて、多彩な発展を見せた金工の独特な技と美の世界を探ろうとしたものである。



出品目録

作家名	作品名	作家名	作品名
本間琢斎	羅漢鈕香炉	初代 田藍堂	斑紫銅色菊唐草透香炉
"	雷鱗文水滴	大国柏斎	蝦環付達磨形釜
加納夏雄	群鷺図額	大島如雲	濡れ獅子図額
"	月に雁図額	"	蝦蓼仙人置物
"	牡丹図手板	海野美盛	鉄打出普賢硯箱
"	鹿に虎図手板	香取秀真	靈獸文大花瓶
"	波に雲図手板	"	鳳凰文様花瓶
"	夏山水図手板	"	笑獅子香炉
黒川栄勝	龍銀桜花形菓子器	"	筋入花瓶
鹿島一布	山水図額	"	菊文釜
海野勝珉	還城楽図額	"	鳩香炉
"	松靈芝図花瓶	津田信夫	一點玲瓏
"	錦魚図手板	"	英雄關志鑄銅軍鶏置物
"	布袋図手板	"	鴨
塚田秀鏡	躑躅に鶴鴿図煙草箱	"	鑄銅水盤
"	海老図煙草箱	"	鳳翔薰炉
鈴木長吉	鷺置物	"	北辺夜猫子
"	波濤文水盤	"	戦意光盈
豊川光長	龍銀富士図煙草箱	清水南山	梅花図鍍金印櫃
平田宗幸	赤銅茄子水滴	"	腕相撲図硯屏
香川勝広	猿猴弄蟬螂図額	"	九龍図鉢
"	布袋唐子遊図花瓶	石田英一	鍛鉄釜
岡崎雪声	銅鐘	佐々木象堂	鑄銅南天唐草小鳥文花瓶
"	弁財天像額	"	金銅瑞鳥薰炉

作家名	作品名
佐々木象堂	銅 阮咸置物
〃	銅 獸装耳花瓶
〃	銅 物置采花瓶
海野清	青 銀花器
〃	觀 音菩薩
山本安雲	征 露花瓶
杉田禾堂	角 形香炉
北原千鹿	鶉 文金彩壺
〃	透彫溪流文手箱
〃	漆彩色己文酒瓶
山本純民	唐銅偏型花瓶
根来実三	八 景釜
高村豊周	銅花瓶おもと文
〃	銅花器鼎
〃	朱銅帶文壺
〃	朱銅花瓶枯山水
〃	龍銀花入草文
〃	龍 銀香炉
大木秀春	金 具汀
〃	金 具鶉
内藤春治	青銅花瓶
〃	狐 置物
林万寿人	青銅鷺文水盤
豊田勝秋	秋晴銅花器
鹿島一谷	彩雲四分一水滴
〃	布目象嵌菱つなぎ文銀水指
中野恵祥	板金山羊花挿
〃	小 鳥鈕 管
香取正彦	銅 潤和盤
〃	龍銀玉錯花瓶
丸谷端堂	銅盤（網目文）
〃	銅花生（流線文）
山室百世	古代を想う

作家名	作品名
長野埜志	四季花文だつま釜
会田富康	鳥のいる青銅花器
大須賀喬	昆虫文小管
〃	布目象嵌鉄皿
二代宮田藍堂	銅鳥耳瓶
信田洋	黄銅花いらず
〃	透 壺
海野建夫	早 春
内藤四郎	黄銅六角長手管
〃	銀流線文箱
関谷四郎	接合せ横線壺
山脇洋二	蜥蜴文硯箱
〃	聖
三井安蘇夫	ふさほろほろ鳥
染川鐵之助	青銅聖日
蓮田脩吾郎	容
〃	黄銅浮彫ルルド雲仙
津田永寿	早 春
〃	材木岩（青銅花器）
帖佐美行	木の実の夢
〃	火の鳥
〃	待宵の管
鈴木貫爾	天山路の几
山下恒雄	花を持つ虫
宮田宏平	装身具
〃	銅白銅・瓶「生命の透間風」
平松保城	装身具
鈴木治平	かけはし
〃	輪（香炉）
越智健三	樹 想
大須賀選	室内灯ろう
〃	銀打出金彩鳩熏炉

講演会 1月28日「近代金工への道」香取忠彦氏
美術を語る会 2月6日「金工の技法と見方」鈴木治平氏
印刷物 図録 25.7cm×18.2cm 1,000部
ポスター 72.8cm×51.5cm 1,000枚
目録 B 5 20,000枚

企 画 展

—画業70年の回顧—

鳩 川 誠 一 展

会 期 昭和57年 5月27日～ 6月17日

展示点数 96点

入館者数 6,238人

鳩川誠一氏は、本県出身の洋画家で独立美術協会に所属し審査員をつとめ、「東洋と西洋の表現的技法を自由に融合して日本のこころをあらわそうとする情趣豊かな作品」を次々に生み出している。

明治30年、茂原市に生まれ、洋画家を志し白日会、独立美術協会などの会員として活躍し、日本内外で個展を数多く開くなど、意欲的な創作活動を続け、この間、多くの賞を受け輝かしい業績を残し、これからも引き続きニューヨーク、メキシコなどで作品展が予定されている。

本展は、先に鳩川誠一氏の代表作が本館に寄贈されたことを記念し、氏の画業70年の軌跡をたどるとともに、その魅力を探り理解を深めるため企画した。



——画業70年の回顧——

千歳立寄道 5/27(土)～6/17(日) 入館者数 6,238人

出 品 目 録

作 品 名	制作年
花	1935
花 B	1957
花	1962
男	1968
星 祭	1965
ノ エ ル	1973
花 火	1957
花 火	1955
女 人 の 祭 典	1976
女 と 鳥	1960
男 A	1955
花 と 女	1965
美 女 と 野 獣	1965
庭 の 彫 像	1960
野 獣 と 裸 婦	1965
さ さ や き	1971
キ ャ バ レ ー の 女	1960
赤 い 顔	1960
カ カ シ	1967

作 品 名	制作年
女 の 祭 典	1981
祭 の 夜	1975
女	1981
群 像	1980
祭	1965
首 マ ン ダ ラ	1965
裸 女 と 仏 陀	1960
愛 「愛 す る」	1972
さ さ や き	1965
野 の 花	1953
花	1967
月 夜 の 愛 人	1980
顔 B	1953
関 谷 風 景	1920
雪 の 庭	1923
美 起 江	1923
かんなんどうの子供達	1928
静 物	1925
安 茂 里 の 杏	1941

作 品 名	制作年
長 屋 門	1933
果 物 籠 の あ る 静 物	1928
か も め	1941
静 物	1934
大 同 石 仏	1930
お し ど り	1938
女 た ち	1949
星 ま つ り	1950
野 の 花	1955
カ カ シ	1966
田 園	1955
福 島 風 景	1953
飯 坂 の 雪	1947
親 と 児	1960
花 と 女	1952
舞 妓	1956
網 走 草 原	1963
原 生 花 園	1963
原 生 花 園	1956
菩 薩	1965
ベ ニ ス 風 景	1969
女 「パ リ の 女」	1970
人	1955
花	1948
ひ ま わ り	1950
ラ イ ラ ッ ク と 蝶	1965
花	1970
け し の 花	1969
花	1980

作 品 名	制作年
朝 日 連 峰	1947
桃 花 風 景	1950
風 景	1960
層 雲 峡 の 秋	1972
三 千 院 の 秋	1977
赤 岩 風 景	1978
勝 浦 風 景	1979
太 東 崎	1979
岩 和 田 風 景	1979
オ ロ ロ ン 鳥	1964
花	1979
知 床 岬	1975
フ ラ ン ス 風 景	1967
パ レ ッ ト の 顔	1970
花 と 蝶	1976
ギリシャのつばの花	1973
花	1973
花	1963
バ レ エ ー	1960
裸 女 と 顔	1960
裸 婦	1960
二 人	1976
顔	1964
原 生 花 園	1965
海 女 人 命 救 助	1980
パ リ の 女	1971
スペイン、マラガの女	1971
顔	1970
北 欧 の 女	1971

美術を語る会 6月5日「画業70年を回顧して」鳩川誠一氏
印刷物 ポスター 59.3cm×42.0cm 1,000枚
日 録 B 5 10,000枚

——新しい水絵を求めて——

中西利雄展

会 期 昭和57年 7月22日～8月19日

展示点数 104点

入館者数 9,620人

水彩画は絵画の材料として私達に最も親しいばかりでなく、日本の近代絵画史の展開を考えるうえでも重要な役割を果たしてきた。

本館では、水彩画の体系的な収集を図り、これまでも「水彩画の再発見」展の開催など水彩画のもつ意義や歴史的な流れを紹介してきたが、今回は水彩画の一層の近代化をおしすすめた中西利雄に焦点をあてた。

中西利雄は、水彩によって油彩に劣らない絵画表現をめざし、流暢な描写と明快な色調を駆使して、近代性あふれる新鮮な水彩画を生み出した。

本展は、氏の代表的作品を展示し、その軌跡をたどるとともに、水彩の魅力を味わい、その理解を深めるためのものである。



新しい水絵を求めて 中西利雄展

昭和57年 7月22日～8月19日

千葉県立美術館

出 品 目 録

作 品 名	制作年
カーニュ（南仏にて）	1929
クラマールの並木道	〃
港と教会	〃
トリエール風景	1930
ロダンの家の見える風景	〃
田舎の並木道	〃
黄色い首巻	〃
ルーブルの庭	〃
ジャルダン・ド・ルーブル	〃
教会の見える風景	〃
ノートルダム寺院	〃
トリエール・シュール・セーヌ	〃
南仏風景	〃
雪の風景	〃
ベニス	〃
イタリア風景	〃
ルーアンの河岸	〃
熱帯樹のある風景	〃
滞船	1931
シルク・ディペール	〃
想い	〃
港（A）	〃
橋と船	〃
並木道	〃

作 品 名	制作年
女とヨット	1934
読書	〃
婦人帽子店	1935
人物物	〃
夏の海岸（A）	〃
港（松山）	1936
長崎にて	〃
外房風景	〃
初秋（千葉）	〃
オリーブ樹のある島	〃
人物物	〃
富士を望む	〃
夏の海岸（B）	〃
夏の海岸	〃
和装	1937
木立（井之頭公園）	〃
春	〃
秋	〃
裸婦	〃
人物物	〃
人物物	〃
婦人像	〃
婦人像	〃
人物物	〃

作 品 名	制作年
彫 刻 と 女	1939
化粧 す る 女	"
婦 人 像 (B)	"
青 衣 人 物	1940
楽 興 の 時	"
白 い 服 の 姉 妹	"
青 い 服 の 女	"
H 嬢	"
室内 (椅子による女)	1941
中 国 服 の 女	1943
花	"
花	"
母 の 像	"
静 物	"
勝 沼 風 景	1945
浅野川新緑 (金沢にて)	1946
庭 先 (沢井村)	"
蓼 科 高 原	"
志 賀 高 原	"
麦 秋	"
野 尻 湖 畔	"
沢 井 の 秋	"
室 内 (A)	"
沢 井 村 風 景	"
港 (B)	1931
ニ ー ス の 庭	"
モンテカルロ	"
森 の カ フ ェ	"
港 の 朝	"
ア ッ シ ジ (A)	"

作 品 名	制作年
庭	"
ア ッ シ ジ (B)	"
花	1932
伊 太 利 亜 の 春	1933
高 須 風 景 (広 島)	1934
元 安 川 岸 (広 島)	— "
奥 入 瀬	1938
新 緑	"
人 物 (A)	"
人 物	"
札幌の夏 (北大構内)	1939
桃 畠 (広島)	"
新 緑 (奥入瀬)	"
佐 原 風 景 (千葉)	"
人 物	"
少 女 像 (B)	"
緑 衣 人 物	"
四 人 の 女	"
溪流 (沢井村にて)	1946
新 緑 (沢井村)	"
室 内 (B)	"
制 作	"
井 之 頭 公 園	1947
飯 能 風 景	"
曇り日の離宮と駅	"
ピアノのある部屋	"

・素描、挿絵等資料

美術を語る会 8月7日 「私の中西利雄観」 陶山 侃氏

印刷物 ポスター 59.3cm×42.0cm 1,000枚

目録 B 5 6 頁 10,000枚

第6回 千葉県移動美術館

佐倉市立中央公民館
会 期 昭和57年 9月21日～10月 3日

柏市中央公民館
会 期 昭和57年10月 6日～10月19日
展示点数 49点
入館者数 佐倉市立中央公民館 3,309人
柏市中央公民館 4,038人

本館は、昭和49年10月に開館して以来、郷土にかかわりの深い作品を中心に徐々に収集の輪を広げている。これらの作品は、本館の常設展において、特別展等の期間を除いて順次公開してきたが、さらに、より広く県民に美術作品鑑賞の機会を提供するため、企画したのが千葉県移動美術館である。



千葉県立美術館収蔵作品による
第六回 千葉県移動美術館
57.9.21 - 10.3 57.10.6 - 19
佐倉市立中央公民館 柏市中央公民館
主催：千葉県美術館、千葉県教育委員会、柏市教育委員会

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
日 本 画		雲 愛 嘔	A N G E L E S
富 取 風 堂	群 魚	原 三 郎	廃 船
渡 辺 学	川 口	版 画	
松 尾 敏 男	原 野	浜 口 陽 三	ポ プ ラ
高 畑 郁 子	メ ス テ ィ ー ソ の 女 達	〃	26 の さ く ら ん ば
後 藤 純 男	山 門 雨 後	星 襄 一	王 の 樹
洋 画		〃	陽 (林)
浅 井 忠	藁 屋 根	深 沢 幸 雄	古 い 楽 譜
〃	農 婦	〃	掌 の 中 の 影
都 鳥 英 喜	八 瀬 の 秋	池 田 満 寿 夫	S o m e t h i n g I
石 井 柏 亭	信 州 風 景	〃	シ ン デ レ ラ の 広 告
霜 鳥 之 彦	緑 の ス ウ ェ ー タ ー	富 田 文 雄	森 75 - 20
黒 田 重 太 郎	女 と 小 犬	〃	接 合 77 - 25
安 井 曾 太 郎	熱 海 附 近	彫 刻	
梅 原 龍 三 郎	竹 窓 読 書 図	大 須 賀 力	倚 る
田 中 善 之 助	パ リ の 女	神 野 義 衛	呻
原 勝 郎	森 (C)	木 村 賢 太 郎	う ご め く ト ル ソ ー VI
大 久 保 作 次 郎	丘 上 の 鐘 楼	郡 司 和 男	天 使
林 倭 衛	岩 和 田 海 岸	工 芸	
椿 貞 雄	横 堀 角 次 郎 兄 像	香 取 秀 真	鳳 凰 文 様 花 瓶
中 西 利 雄	曇 り 日 の 離 宮 と 駅	〃	笑 獅 子 香 炉
小 堀 進	レ マ ン 湖 畔	津 田 信 夫	鳳 翔 薫 炉

作 家 名		作 品 名		作 家 名		作 品 名	
津 田 信 夫		北 辺 夜 猫 子		鈴 木 治 平		条 紋 金 彩 花 瓶	
宮之原 謙		象 嵌 磁 鉢		書			
土 肥 刀 泉		釉 彩 両 耳 花 瓶		浅 見 喜 舟		檯	櫛
信 田 洋		装 瓶 (楼)		大 石 隆 子		待	君
”		乳 装 銀 瓶		鈴 木 方 鶴		万	昌
藤 田 喬 平		飾 筥 朱 雀					

印刷物	ポスター	59.3cm×42.0cm	1,000枚
	目録	B 4 2 折	10,000枚

千葉県芸術祭

第34回 千葉県美術展覧会

会 期 昭和57年10月23日～11月14日

展示点数 1,986点

主 催 千葉県美術会・千葉県教育委員会・千葉県

本県の美術家の作品を広く紹介するとともに、県民の美意識を高め、郷土美術文化の振興と情操の純化に資するために開催するもので、日本画・洋画・彫塑・工芸・書道の各分野を展示した。



出品点数

	会 員 点 数	公 募 点 数	入 選 点 数	展 示 点 数	新 人 選
日 本 画	79 (79)	213 (209)	156 (154)	235 (233)	61
洋 画	179 (182)	633 (658)	362 (347)	541 (529)	106
彫 塑	65 (56)	32 (32)	31 (31)	96 (87)	15
工 芸	54 (45)	142 (141)	105 (117)	159 (162)	4
書 道	178 (168)	889 (810)	777 (504)	955 (672)	135
計	555 (530)	1909 (1850)	1431 (1153)	1986 (1682)	321

() 内は33回県展

解説会 10月31日 書 種谷 扇舟氏
 11月6日 日本画 五十嵐 幹氏
 11月7日 洋 画 篠崎 輝夫氏
 11月13日 彫 塑 原 武典氏
 11月14日 工 芸 三橋 英作氏

印刷物 目録 22.8cm×18.4cm 3,000部 ポスター 36.4cm×51.8cm 1,000枚

第14回千葉県高等学校芸術祭

美術・工芸・書道展

会 期 昭和57年11月18日～11月28日
主 催 千葉県高等学校芸術祭実行委員会
千葉県教育委員会

高等学校美術科，工芸科，書道科の一年間の平常授業での成果と，課外活動での成果及び教員の研究作品を展示し合うことにより，生徒は創作活動を刺激され，他校の状況を知り，教員は他校との比較で教育効果，方法について研究することを直接に目指し，間接には千葉県の芸術活動を昂揚することを目的とした。

参加状況

部 門	書 道	美術・工芸	計
生 徒	77校	80校	157校
教 員	71校	24校	95校
計	148校	104校	252校



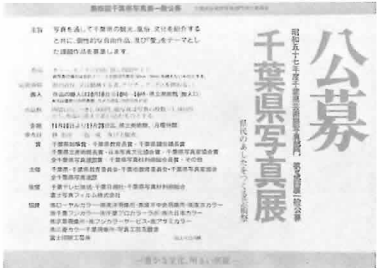
昭和57年度芸術祭

第5回千葉県写真展

会 期 昭和57年11月18日～11月28日
展示点数 127点
主 催 千葉県写真家協会・千葉県教育委員会

主都に隣接する本県は，開発の一途を歩み目まぐるしい変貌をとげつつある。失われつつある風土を，一般公募の作品を中心にプロ写真家の秀れた作品を含み，広く県民に紹介した。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数	会 員 数
169	450	79	107	127	15



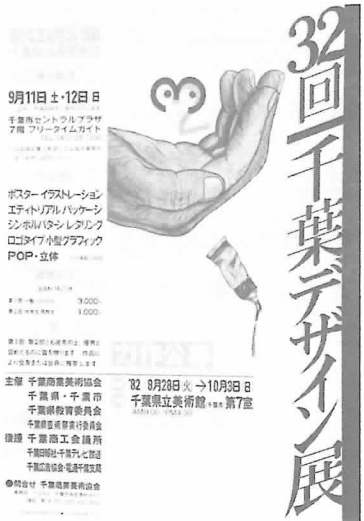
昭和57年度千葉県芸術祭

第32回千葉デザイン展

会 期 昭和57年 9月28日～10月 3日
展示点数 40点
主 催 千葉商業美術協会
千葉市教育委員会
千葉県教育委員会

商業デザイン作品を公募，展示することにより，県内デザインの質的レベルアップをはかるとともにデザイン志向者の育成に努めた。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数	会 員 数
64	97	16	18	40	20



団 体 展

展 覧 会 名	内 容 等	会 期	展示点数
新 芸 術 協 会 千 葉 展	新芸術至上主義による造形美術の探求，研鑽をもって真の芸術を開拓樹立し画壇における最もオリジナルなギルドとして名誉ある足跡を記録することを目的とした。	57.4.13 ～4.18	53
第 19 回 全 日 本 綜 合 書 道 大 展 覧 会	書道文化の向上をめざすため，一般・学生より公募し、応募者の作品の力量を競い合うことを目的とした。	57.4.20 ～4.25	1,538
第 2 回 千 葉 美 術 工 芸 会 展	県内在住の作家による，現代生活にフィットする新しい造形のを求めた工芸作品（陶芸・漆芸・金工・染色・織物・木工・竹工・硝子・七宝等）を展示した。	57.4.27 ～5.9	83
第 5 回 千 葉 等 迦 会 展	本会に所属する同人で，本県に居住する作家及び県下より募った作家の作品展で，同人の研修，向上を目的とした。	57.4.27 ～5.3	144
千 葉 新 協 展	県内に在住する会員の研究発表を目的とするものであり，水彩・油彩・素描・写真等を展示した。	57.4.27 ～5.9	120
第 8 回 歩 会 彫 刻 展	県内及び県内出身者の彫刻家により，所属や流派にとわれない自由な勉強の成果を発表することを目的とした。	57.4.27 ～5.9	41
第 13 回 表 美 展	県内の表具・経師・内装の技術を図り，地域文化の発展に期することを目的に作品を公開し，伝統技術の向上及び，普及につとめた。	57.5.5 ～5.9	120
第 6 回 墨 の 県 展	東京の隣接都市としての千葉の文化の発展に力をつくし，併せて県民に，伝統文化の啓蒙を促した。	57.5.11 ～5.16	354
千葉市アマチュアクラブ 美 術 展 覧 会	千葉市民又は千葉市内勤務者のアマチュア美術家及び美術愛好者の親睦を深め会員相互の向上を目的とした。	57.5.11 ～5.16	437
二 科 千 葉 支 部 展	広く県下一般・ジュニアより作品を公募し県美術振興の発展を願い，二科会の趣旨にそつて開催した。	57.5.18 ～5.23	1,279

展 覧 会 名	内 容 等	会 期	展示点数
二 紀 会 千 葉 県 支 部 展	「美術の価値を流派の新旧に置かず、皮相の類型を排する」という二紀会の趣旨のもとに支部展を開催した。	57.5.18 ～5.23	52
第 9 回 千 虹 会 日 本 画 展	県内日本画家で、各公募展において受賞した作家たちの作品を展示した。	57.5.25 ～6.6	33
千 葉 県 書 道 協 会 展	県下の書道の振興と会員相互の研修・親睦をはかることを目的とした。	57.6.8 ～6.13	268
弥 生 書 展	会員相互の書道振興発展のため作品展覧会を行った。	57.6.8 ～6.13	100
第 3 回 千 葉 全 展	地方会員の斯道奨励と地方美術文化の向上・発展をめざして開催した地域公募展である。	57.6.15 ～6.20	163
第 5 回 一 陽 会 千 葉 支 部 展	県内在住美術家の絵画研修と美術普及のための展覧会。	57.6.22 ～6.27	60
第 48 回 習 美 会 初 夏 展	日本美術愛好会習美会主催。日本画・洋画・水墨画等。	57.6.22 ～6.27	136
貌 展	流派、作風を超え作品を通じてのふれあいと、向上を求めることを目指した。絵画・彫刻・工芸写真等を展示。	57.6.22 ～6.27	60
第 5 回 '82 精 鋭 展	多様化した表現形成の現代美術の中で「一つの問題意識」を持った作品展を開催すべく会員の成果を展示した。	57.6.22 ～7.4	54
第10回現代書道50人展・ 千葉書壇新進展・現代書 壇代表名作展・千葉書壇 秀 抜 展	現代書道界における佳作と千葉県内から秀抜された作品を一堂に展示し、書道のより一層の興隆と普及をはかった。	57.6.22 ～7.4	224

展 覧 会 名	内 容 等	会 期	展示点数
千葉美術シンポジウム 展 & 青 枢 展	会員・会友による絵画作品展，全国より公募した扇面作品展，及び美術シンポジウムを行った。	57.7.6 ～7.18	140
第13回千葉市水墨画 同好会連合会展	会員の作品を広く一般に紹介するとともに水墨画の普及・啓蒙につとめた。	57.7.20 ～8.1	610
千葉サンケイ現代洋画展	千葉県の美術文化の振興と発展に寄与し，郷土の新人発掘を目的とした公募展。	57.8.3 ～8.15	253
第10回千葉市 教職員美術展覧会	千葉市在住・勤務の教職員の創作意欲を活発にし，図工・美術教育の指導力の向上をはかった。	57.8.17 ～8.29	121
第11回写真千葉県展	県内写真人を対象に写真文化の推進に寄与することを目的として開催した。	57.8.17 ～8.29	245
第12回いてふ会彫刻展	図工・美術家教師としての資質を高めるための研究の一端を作品を通して，会員の研修と同時に数多くの保護者・児童・生徒をして美術に親しませる機会とした。	57.8.17 ～8.29	43
第7回子供と教師の 作 品 展	児童作品を発表し，造形美術教育の振興をはかるとともに，教師の造形作品についての研修・研究の場とした。	57.8.24 ～8.29	2,500
静雅書道会小中 学部千葉地区展	未就学児童から中学生までの生徒による日頃の成果を発表した。	57.8.31 ～9.5	238
龍峽書道会千葉県人展	書道の普及推進を図り，併せて健全な精神の涵養に努め，ひいては人間形成の醸成に努めることを目的とした。	57.8.31 ～9.5	500
第22回白扇書道会展・ 書道芸術院南関東展	会員の臨書作品の発表と，一般公募の作品を陳列し，併せて高度の芸術作品を中央から出品して，書道の振興をはかることを目的とした。	57.9.7 ～9.12	3,885

展 覧 会 名	内 容 等	会 期	展示点数
第 2 回 日 本 春 秋 書 院 千 葉 県 書 道 連 盟 展	会員の作品を広く公開し、書を通じての相互親睦と書の技術の向上をはかった。	57.9.14 ～9.19	1,470
第 9 回 文 化 書 道 千 葉 県 連 合 会 公 募 展 覧 会	本会の教育書道の本義に則り、一般公募展と併せて開催し、斯道の発展とするものである。	57.9.14 ～9.19	2,500
第12回新構造千葉支部展	絵画部会員を中心に写真部、工芸部、彫刻部会員の展示を通し、地方美術の発展を担うことを目的とした。	57.9.14 ～9.19	105
千 葉 82 展	実験的な制作活動を行う美術家の交流をはかり、千葉を中心とした首都圏の実験的作家を交え、県内美術文化の向上をめざした。	57.9.21 ～9.26	141
第14回千葉ファンシー展	会員の作品展示により多くの人々に鑑賞してもらい、批評を受け、今後の制作活動の資とした。	57.9.28 ～10.3	91
第 29 回 千 葉 県 勤 労 者 美 術 展	県内勤労者が余暇を利用して創作した美術作品の発表の場を提供することによって、文化的教養の向上をはかった。	57.9.28 ～10.3	319
第 2 回 二 科 会 写 真 部 千 葉 支 部 展	県内の写真作家の作品を展示し、会員相互の技術向上をはかるとともに後進の育成に努めた。	57.9.28 ～10.3	61
第25回千葉市小・中・養 護学校児童・生徒作品 総 合 展 覧 会	各教科・領域における日頃の学習効果を展示公開し質の向上をはかるとともに、作品評価の観点や、制作過程の研究を通して研修・啓発に資した。	57.10.5 ～10.13	4,700
あ ら は れ 今日の美術を考える会	本県在住の若手作家を中心に、平面・立体のジャンルを超えた現代美術の状況を提示することにより、今日の美術のあり方を理解・認識してもらうことを目的とした。	57.11.30 ～12.5	13
第 27 回 こ ど も 県 展	次代を担う子ども達の美的情操を豊かにし創造性を高めることを目的に、県内児童・生徒の絵画作品を一堂に展示した。	57.12.7 ～12.9	6,253

展 覧 会 名	内 容 等	会 期	展示点数
刻 字 千 葉 展	県下の刻字書道の認識と理解を深めるために開催した。	57.12.21 ～12.25	133
第18回登龍社・宮坂会 書 初 展	書の古典に立脚し、現代的創作を表出し、長い伝統のある書初に親しみながら書道の発展向上をはかることを目的とした。	58.1.5 ～1.9	578
第11回千葉県大学美術 連 盟 展	美術を媒体とし、各加盟サークル間の親睦をはかり、研究活動の集大成を多くの美術愛好家に批評してもらい、今後の糧とするとともに芸術文化の振興をはかった。	58.1.5 ～1.9	228
群 鷗 書 人 展	各派総合団体で、書美の探求のため、一般書作品を展示した。	58.1.11 ～1.16	89
千 葉 展	新象作家協会・独立美術協会・モダンアート協会・行動美術協会・創画会・新制作協会による所属する県内在住の作家により、絵画・版画・彫刻作品の発表展示。	58.1.18 ～1.30	132
第35回千葉県小中高 書 初 展 覧 会	県内の小・中・高校生の書初を実施し、書写、習字教育の振興と伝統的な風習を継続してゆくものである。	58.2.1 ～2.6	940
親 子 絵 画 展	親と子が美術を通して理解し合い、多くの方々の批評をうけ、かつコミュニケーションの輪を広げようと開催した。	58.2.8 ～2.13	176
千葉大学教育学部 美術科卒業制作展	卒業を目前にして4年間の美術科教育研究の成果の一部を作品を通して発表した。	58.2.8 ～2.13	50
千葉大学生書道展	卒業生を中心とした学生の一年間の学習の成果を発表した。	58.2.8 ～2.13	100
第6回唱和会書展	会員の研究成果を発表し、書道技術の向上をはかり、一般鑑賞者に書道についての理解を高めた。	58.2.15 ～2.20	45

展 覧 会 名	内 容 等	会 期	展示点数
幕張北高校書道コース 卒 業 制 作 展	幕張北高等学校書道コース第一期生の卒業 作品を発表・展示した。	58.2.14 ～2.20	120
第 8 回 千 葉 県 民 写 真 展	アマチュアカメラマンが、その力量を競い 合い、写真文化の発展と写真を通じて地域社 会に貢献する精神の涵養を目的とした。	58.2.15 ～2.27	380
葉 美 会 展	本館友の会の会員が創作の楽しみを分かち合 いかつ実技講座等の成果を発表した。	58.2.15 ～2.27	95
子 ど も 造 形 展	幼児・児童の立体・平面の作品を発表し、 彼らの意欲の増進と美術教育の研究を目的と した。	58.2.22 ～2.27	520
雁 鴻 会 展	和洋女子大学国文学科書道選択の卒業にあ たり、4年間に学んだ成果を作品によって発 表した。	58.2.22 ～2.27	57
第 14 回 千 葉 市 民 美 術 展 覧 会	千葉市民よりの公募展であり、市民の芸術 文化の振興と向上をはかった。	58.3.1 ～3.21	1,208
第 30 回 書 星 教 育 部 展	小・中・高校生の習字・書道の振興と技能 向上のため半切による大作を指導し、併せて 創作活動と作品鑑賞の両面の向上をはかった。	58.3.23 ～3.27	2,112

講演会

(1) 名所と絵地図

講師 国立国会図書館主査 朝倉治彦氏

期 日 昭和57年 9 月26日

絵地図と呼ばれるものに、地図風のもの、絵画風のもの、まったく絵画と思われるものがあるが、これは地図類を絵師が描いていたということとかかわりがあると思われる。そして、新井白石の日記にもそのことが記されており、絵地図が絵画の範囲内のものであると考えられていた。このように、絵図の範囲は広く、従って、美術方面を中心に研究したり、地図の方面を中心に研究したりするわけであるが、まだその研究は新しく、特に鳥瞰図の研究は昭和30年頃からである。現在、地図ブームといわれているが、地図を使って、歴史や過去を調べ、現在はそれらの資料を整理している段階といつてよい。

次に『鳥瞰』という斜め上から見る方法は、外国からの影響であろうという説もあるが、天平時代にも見られ必ずしも、外国からの影響だけでなく、当時もこの方法が良いということに気づいていたためであろう。

また、なぜ名所が地図の中に書きこまれたかを考えると、人々が名所を見て歩いたという社会的風潮だけでなく、名所が歌枕の中で作られたものであり、重要な知識として伝わり、人々がそこを訪れるようになったためである。

最後に、かつて、名所だった所の地名や地形がどう変わっているかを環境破壊というようなことにもつなげて考えていかなければならないと結ばれた。

(2) 近代金工への道

講師 東京国立博物館金工室長 香取忠彦氏

期 日 昭和58年 1 月23日

金工の歴史を概観すると、弥生時代は銅鐸。古墳時代は柄頭や銅鏡。天平時代は大仏や梵鐘、また、正倉院の工芸品等。平安、鎌倉、室町時代は、鏡、刀剣、甲冑。室町～桃山時代は、茶の湯釜。江戸時代は生活用品等に優れたものが見られる。

次に、近代の金工について、その流れを大きく分けると、(1)江戸末期から明治に育った工人の時期、(2)明治30年代末から40年代にかけての時期、即ち、ヨーロッパの技術が実を結んだ時期、(3)戦後といわれる時期となる。

また、特に近代金工の上で、後に大きな影響を与えた人として、津田信夫と香取秀真がいる。津田信夫はヨーロッパの新しい技法を取り入れ進歩的な考えで新しい金工をめざした。一方の香取秀真は日本や中国の伝統を守りながら、芸術の境地を築こうとする古典派であった。この二つの流れは対立するものであるかのようにいう人もいたが、全体の構成が整い、時代感覚の表出に重点が置かれ、共により高い芸術をめざしたものであった。

最後に、現代の金工は、必ずしも栄誉ある位置にあるとはいえないが、今後における栄誉を確立するには、何といっても作家たちの努力以外にないと結ばれていた。



「名所と絵地図」



「近代金工への道」

実 技 講 座

「みる・かたる・つくる」という本館の事業の一環として実技講座を実施しているが、本年度は次の講座を行った。

(1) 日本画入門講座

期 日 第1期 昭和57年6月5日・6日・12日・13日、7月3日・4日

第2期 昭和57年10月16日・17日・19日・20日・21日・22日

講 師 第1期 県美術会理事 松原道男氏

第2期 県美術会常任理事 渡辺学氏

参加者数 各期25名

内 容 花、くだもの、野菜などを描きながら、えのぐ、筆などの日本画の材料や用具、また物の見方や色ぬり方など基本的な技法について学習した。

(2) デッサン入門講座

期 日 第1期 昭和57年7月22日・23日

第2期 昭和57年8月19日・20日

第3期 昭和57年11月6日・7日

講 師 第1期 千葉大学助教授 戸田健夫氏

第2期 県美術会理事 羽生智樹氏

第3期 県美術会理事 天野三郎氏

参加者数 各期30名

内 容 人物、静物、石膏等のデッサンをし、形のとり方、明暗、立体感、動き、質感、空間感などデッサンの基本的な技法について学習した。

(3) 洋画入門講座

期 日 第1期 昭和57年5月22日・23日、6月26日・27日、7月17日・18日

第2期 昭和57年10月30日・31日、11月27日・28日、12月11日・12日

講 師 第1期 千葉大学教授 太田洋三氏

第2期 千葉県立船橋高等学校教諭 根岸茂行氏

参加者数 各期30名

内 容 人物、静物、風景などを題材にして、デッサンから油彩までの制作を通して、洋画の基本的な技法について学習した。

(4) 洋画研修講座

期 日 第1期 昭和57年5月29日・30日、6月19日・20日、7月10日・11日

第2期 昭和57年8月28日・29日、9月18日・19日、10月2日・3日

第3期 昭和57年11月16日・17日・23日・24日・30日、12月1日

講 師 第1期 千葉大学教授 武内和夫氏

第2期 県美術会理事 高橋規矩治郎氏

第3期 県美術会常任理事 篠崎輝夫氏

参加者数 各期30名

内 容 洋画入門講座を修了したもの、または同程度の者を対象にし、油彩による裸婦の制作を中心に学習した。

(5) 版画入門講座

期 日 昭和57年 8 月 7 日・8 日・14 日・15 日・20 日・21 日・22 日

講 師 日本版画協会会員 深沢幸雄氏

参加者数 30名

内 容 エッチング、アクワチントなどの制作を通して、銅版画の材料や用具、また腐蝕、刷りの方法等、基礎的な技法について学習した。

(6) 彫塑入門講座

期 日 昭和57年 9 月28 日・29 日、10 月 7 日・8 日・12 日・14 日・15 日

講 師 新制作協会会員 青木三四郎氏

参加者数 20名

内 容 首像の制作を通して、心棒の作り方、粘土による肉付けや石膏取りの方法等、彫塑の基礎的な方法について学習した。

(7) 陶芸入門講座

期 日 第 1 期 昭和57年 6 月 1 日・2 日・3 日・4 日、7 月 1 日・8 日

第 2 期 昭和57年11 月 9 日・10 日・11 日・12 日、12 月 9 日・16 日

講 師 第 1 期 県美術会会員 保田勝久氏

第 2 期 陶芸家 羽二生隆宏氏

参加者数 各期30名

内 容 コーヒーカップ、皿、まっ茶茶わん、花びん等の制作を通して、釉薬などの材料やひもづくり、板づくりなど陶芸の基礎的な技法について学習した。

(8) 七宝焼入門講座

期 日 第 1 期 昭和57年12 月20 日・21 日

第 2 期 昭和58年 1 月29 日・30 日

講 師 第 1 期・第 2 期とも

千葉大学教授 長南光男氏

参加者数 各期30名

内 容 ペン皿、壁かけ、プローチ、ペンダント等、身のまわりの装飾品の制作を通して、七宝焼の材料や基礎的な技法について学習した。

(9) 書芸入門講座

期 日 昭和57年10 月27 日・28 日・29 日、11 月10 日・11 日・12 日

講 師 県美術会常任理事 福田襄州氏

参加者数 30名

内 容 筆や硯などの持ち方などの実理的なことから、漢字とかなの楷書、行書、草書の練習を通して、書の基礎的な学習をした。

(10) 書芸研修講座

期 日 昭和58年 2 月22 日・23 日

講 師 県美術会常任理事 浅見錦龍氏

参加者数 30名

内 容 書芸入門講座を修了したもの、または同程度のものを対象にして、主に条幅の書き方を中心に入門講座よりやや高い内容を学習した。

(11) てん刻入門講座

期 日 第1期 昭和57年8月26日・27日

第2期 昭和57年12月4日・5日

講 師 第1期・第2期とも

県美術会会員 霊園鴻甫氏

参加者数 各期30名

内 容 自分の名前を印材に刻する制作を通して、印刀、印泥、印矩等の材料や用具、また、印稿、布字、運刀、押印等の技法について基礎的な学習をした。



洋画入門講座



デッサン入門講座



書芸研修講座

美術を語る会

美術普及事業の一環として、美術一般に関する問題をテーマに「美術を語る会」を定期的で開催し、作家や作品について理解を深めた。

第1回 昭和57年 5月15日

話題提供者 本館学芸員 小泉幸代

テ — マ 収蔵作品展について

はじめに、本館の収蔵作品の収集基本方針や浅井忠をはじめ、房総ゆかりの主な作家について説明があり、次に今回展示中の収蔵作品展について、第1室の展示の仕方、主な作家や作品について解説があった。話し合いでは、収蔵作品についての考え方や要望、語る会の持ち方等活発に意見が出された。最後に収蔵作品展の会場に移り、作品を見ながら意見を交換した。

第2回 昭和57年 6月5日

話題提供者 洋画家 鳩川誠一氏

テ — マ 画業70年を回顧して

企画展「鳩川誠一展」にともない、話題提供者に鳩川氏自身を招いて行われた。本館館長との対談形式で進められ、病弱であったころの少年時代、白日会の会員となつたころの白日会のようにや旧友、福島での疎開時代、また戦後から現在に至るまでをいろいろ語られた。今後については、墨絵をすすめていこうと考えているとますます意気盛んなどろを見せられた。最後に本展会場で作品を解説され終了した。

第3回 昭和57年 8月7日

話題提供者 洋画家 陶山 侃氏

テ — マ 私の中西利雄観

企画展「中西利雄展」にともない、これまでに中西利雄の遺作展にかかわりを持ってきた洋画家の陶山侃氏より話題提供された。氏は中西利雄の作品の特色や中西利雄が水彩画に対してどう考えていたかなど話さ

れ、彼の芸術を支えたのは、本人の努力はいうまでもないが、恩師、友人、家庭環境であったという。会場には、中西利雄夫人もおいでになっており、参加者からの質問にも応じられた。

第4回 昭和57年10月9日

話題提供者 習志野市立大久保図書館長

森田 保氏

テ — マ 絵地図の世界 — 橋本貞秀
をめぐって —

特別展「絵地図の魅力」にともない、橋本貞秀に焦点をあてて行つた。貞秀は下総国東葛郡布佐に生まれ世界的に評価できる浮世絵師のひとりであるにもかかわらず、没年没所に確たる資料もなく、貞秀作といわれるものもごく限られているという。また、貞秀が挿絵を描いた「利根川図志」より、その内容や他の浮世絵師とのかかわり等について、いくつかの資料を示しながら語られた。

第5回 昭和58年 2月6日

話題提供者 東京芸術大学助教授 鈴木治平氏

テ — マ 金工の技法と見方

特別展「金工の世界」にともない、本展出品者のひとりである鈴木治平氏より話題提供された。金工の技法については、彫金、鍍金、鍛金等について話されたが、実際に多くの用具を持って来られ、参加者に見てもらいながら具体的に説明された。そのあと本展会場に移って、実際の作品について材料、方法等について説明された。



第2回



第5回

第6回美術館夏季大学

美術普及事業の一環として、美術に親しみながら、美術に関する知識や理解を深めるとともに、その魅力に触れることのできる美術館夏季大学を開催してきた。

本年は、水彩画を含めた洋画の歴史と見方・楽しみ方等に焦点をあてて開催した。

期 日 昭和57年 7 月30日・31日

参加者数 120名

日	時	講 師	課 題	内 容	日	時	講 師	課 題	内 容
7 月 30 日	午	遠藤健郎 (洋画家)	水彩画について (歴史と見方)	1.水彩画の歴史 2.水彩画の位置 3.水彩画の技法 4.水彩画について (主として浅井忠の水彩画)	7 月 31 日	午	飯田祐三 (画廊社長)	絵画を買う楽しみ	1.働きつづける日本人 (スパルタには文化が栄えず、世界から見捨てられた) 2.14億円の絵を買ったアルゼンチンの老婆 (ニューヨークのオークションにて) 3.人生感を変える絵画との出会い(抽象画からバルビゾン派へ)
	後	田中 稔 (美術評論家)	具象絵画の歴史と見方	1.黒田清輝と文展洋画 2.文展に反抗した二科 3.二科に対立・分離した春陽会、独立 4.写実(具象)を苦悩した岸田劉生 5.日本洋画の原点浅井忠		後	植村鷹千氏 (美術評論家)	抽象絵画の歴史と見方	1.抽象絵画の概念 2.抽象絵画の二つの流れ(幾可学的抽象絵画と非幾可学的抽象絵画) 3.幾可学的抽象絵画と建築及び非幾可学的抽象絵画と音楽 4.抽象絵画の技法と見方



見学会

友の会と共催で行われ、美術作品や文化財を訪ねながら同好の親睦を深めるものである。

新緑の九十九谷を訪ねて

期 日 昭和57年 6 月13日

参加者数 54名

今回の美術鑑賞の旅は、東山魁夷の「残照」の舞台となった鹿野山の九十九谷の展望をねらったものである。午前中は、県立上総博物館を見学した。昼食を国民宿舎の鹿野山センターでとり、午後は、神野寺を見学ののち、緑したたる九十九谷を展望した。参加者のなかには、さっそくスケッチをする人も見られ、楽しい一日を過ごした。



秋の伊豆箱根路を訪ねて

期 日 昭和57年10月 2 日・3 日（1泊2日）

参加者数 26名

第1日目はあいにくの雨であったが、MOA美術館を見学。すばらしい施設と国宝・重要文化財の指定になっている絵画、工芸品等を鑑賞した。伊東温泉で一日の疲れをいやした翌日は好天に恵まれ、池田20世紀美術館を見学。牧田館長の解説によって、内外の現代美術をたんのうした。

VOL.9 No.1 (57.5.15発行6頁)

- 目次 ●すずめがくしの春に思う
●鳩川誠一展——画業70年の回顧——
●常設収蔵作品展
●昭和57年度事業案内
●新収蔵作品紹介(Ⅵ)
●表紙作家の紹介
●ごあんない

VOL.9 No.2 (57.7.15発行6頁)

- 目次 ●——新しい水絵を求めて——中西利雄展
●特別展「絵地図の魅力」
●鳩川誠一展を終えて
●新収蔵作品紹介(Ⅶ)
●「薬屋根」の原風景
●特別展入館料を改定
●ごあんない

VOL.9 No.3 (57.9.6発行6頁)

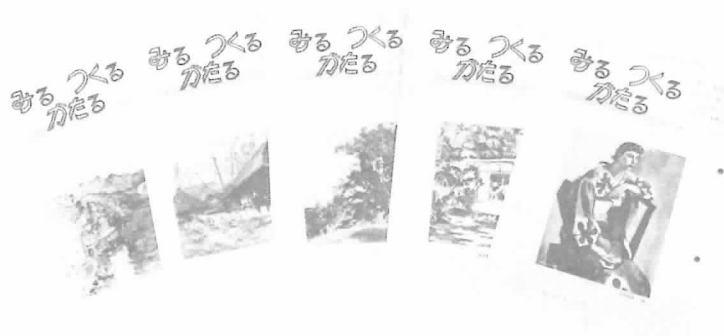
- 目次 ●特別展「絵地図の魅力」——バース・アイの視点から——
●第6回千葉県移動美術館
●中西利雄展を終えて
●新収蔵作品紹介(Ⅷ)
●表紙作家の紹介
●ごあんない

VOL.9 No.4 (57.12.25発行6頁)

- 目次 ●特別展「金工の世界」
●特別展「絵地図の魅力」を終えて
●常設収蔵作品展
●新収蔵作品紹介(Ⅸ)
●表紙作家の紹介
●前衛絵画からバルビゾン派へ(一枚の絵との出会い)
●ごあんない

VOL.9 No.5 (57.3.23発行6頁)

- 目次 ●盛況を誇る美術団体展と今後の課題
●57年度美術館研究員会議報告
●新収蔵作品紹介(X)
●表紙作家の紹介
●県民アトリエ「かたる・つくる」…知る
●友の会「葉美会展」開かる
●ごあんない



友の会(葉美会)

(1) 運営方針

- ① みる・かたる・つくる美術活動に積極的な参加促進をはかる
- ② 会員加入の促進と県民アトリエ事業への積極的な参加
- ③ 組織の拡充と活動の充実をはかる

(2) 組 織

人数 会員数 828名

名称 千葉県立美術館友の会

●千葉県立美術館友の会役員

職 名	氏 名	分担
顧問	浅 見 喜 舟	
名誉会員	松 戸 節 三	
"	市 原 正 夫	
会 長	鈴 木 民 三	
副 会 長	江 尻 幹 雄	親睦
"	高 橋 在 久	
"	始 関 妙	広報
事務局 長	松 本 衛	
監 事	小 室 守 一	事業
"	三 宅 寿 美 子	事業
"	内 山 昭 氏	
理 事	安 田 博 亮	総務
"	新 城 瑠 璃 子	総務
"	押 尾 禎 一	○広報
"	平 野 元 三 郎	親睦
"	大 藤 敬 美	○親睦
"	石 井 秀 雄	広報
"	青 木 了	○事業
"	中 村 幸 子	親睦
"	大 里 功	総務
"	今 井 博	総務
"	安 増 順	
"	高 橋 瑛	
"	高 木 正	
評 議 員	大 高 鐘 蔵	
"	木 内 俊 雄	
"	安 達 園 子	
"	横 沢 正 雄	

職 名	氏 名	分担
評 議 員	高 橋 喜 一 郎	
"	芳 垣 良 一 郎	
"	加 藤 信 子	
"	西 田 葆	
"	藍 野 正 和	
"	植 木 照	
"	広 瀬 慶 子	
"	長 谷 川 芳 衛	広報
"	渡 辺 美 智 子	
"	米 倉 澄 夫	
"	林 美 貴 枝	
"	日 暮 幸 子	広報
"	酒 井 千 代 子	
"	近 藤 愛 子	
"	佐 藤 裕 子	
"	今 井 忠 昭	
	○印 代表者	

(3) 事 業

- ① 友の会だより“しおさい”の刊行、県民アトリエの各種“実技”講座への積極的な参加、美術鑑賞の旅、友の会講演会、ボランティア研修会などを本館と共催及び後援で行った。

② 第7回葉美会展

会 期 昭和58年 2月15日～2月27日
展示点数 95点

葉美会展は、昭和51年10月に「友の会作品展」として、実技講座の作品を主としてはじめられた。葉美会という呼名は千葉県立美術館友の会の略称であることから、第3回より葉美会展と称した。友の会会員であれば、だれでも参加でき、会員がお互いの作品を鑑賞しながら語り合うことにより、創作の楽しみを分かち合う機会とした。なお、最終日には、千葉大学教授武内和夫氏より指導講評が行われた。

友の会だより

「しおさい」

B5 各 1,300部

No.33 (57.6.3発行 4頁)

- 目次
- ヨーロッパ美術館めぐり——感動の一端
 - 石井林響画伯を偲ぶ
 - 浅井忠研究会のメンバーにどうぞ
 - グレー村とバルビゾン
 - 展覧会あんない

No.34 (57.7.15発行 6頁)

- 目次
- 第15回美術鑑賞の旅 新緑の九十九谷を訪ねて
 - ミレーの絵「晩鐘」の地に立って
 - 美術館紹介〈5〉
 - 秋の美術鑑賞の旅ご案内
 - 展覧会あんない

No.35 (57.9.4発行 4頁)

- 目次
- 浅井忠のバリの宿——ヨーロッパ美術館博物館視察の旅路より——
 - 諸講師のお話に感銘 第6回美術館夏季大学開く
 - 秋の美術鑑賞の旅について
 - 展覧会あんない

No.36 (57.11.24発行 6頁)

- 目次
- MOA、池田20世紀両美術館を訪ねて
 - 美術鑑賞の旅 参加者からのおたより
 - 絵地図展を終えて
 - 展覧会あんない

No.37 (58.3.30発行 6頁)

- 目次
- 第7回葉美会展開く
 - 葉美会展から
 - 浅井忠の原風景
 - 美術の郷 倉敷を訪ねて
 - 展覧会あんない



昭和57年度事業案内

月	本館企画の展覧会	普 及 事 業	団 体 展
4	4.1 常設 収蔵作品展		新芸術協会千葉展 (4/13～4/18) 第19回全日本総合書道大観覧会 (4/20～4/25) 第5回千葉等遡会展 (4/27～5/3) 千葉新協展 (4/27～5/9) 第8回歩会彫刻展 (4/27～5/9) 第2回千葉美術工芸展 (4/27～5/9)
5			第13回表美展 (5/5～5/9) 千葉市アマチュア美術クラブ展覧会 (5/11～5/16)
	5.27 鴫川誠一展 —画業70年の回顧—	・美術を語る会(1) (5/15) ・洋画入門(1期) (5月～7月) ・洋画研修(1期) (5月～7月)	第6回墨の泉展 (5/11～5/16) 第27回二科千葉支部展 (5/18～5/23) 二紀会千葉県支部展 (5/18～5/23) 第9回千虹会日本画展 (5/25～6/6)
6	6.17	・美術を語る会(2) (6/5) ・日本画入門(1期) (6月) ・陶芸入門(1期) (6月～7月)	弥生書展 (6/8～6/13) 千葉県書道協会展 (6/8～6/13) 第3回千葉全展 (6/15～6/20) 第5回一陽会千葉支部展 (6/22～6/27) 第48回習美会初夏展 (6/22～6/27) 模展 (6/22～6/27) 第5回'82精鋭展 (6/22～7/4) 第10回現代書道50人展他 (6/29～7/4)
7		・第6回美術館夏季大学 (7/30・31) ・デッサン入門(1期) (7月)	千葉美術シンポジウム&青枢展 (7/6～7/18) 第13回千葉市水墨画同好会連合会展 (7/20～8/1)
	7.22 中西利雄展		第2回千葉サンケイ現代洋画展 (8/3～8/15) 第11回写真千葉県展 (8/17～8/29) 第10回千葉市教職員美術展覧会 (8/17～8/29) 第12回いてふ会彫刻展 (8/17～8/29) 第7回子供と教師の作品展 (8/24～8/29) 龍峽書道会千葉県入展 (8/31～9/5) 静雅書道会小中学部千葉地区展 (8/31～9/5)
8	8.19	・美術を語る会(3) (8/7) ・デッサン入門(2期)(8月) ・版画入門 (8月) ・てん刻入門(1期) (8月) ・洋画研修(2期) (8月～10月)	第22回白扇書道会展・書道芸術院南関東展 (9/7～9/12) 第2回日本春秋書院千葉県書道連盟展 (9/14～9/19)
	9.5		第12回新構造千葉支部展 (9/14～9/19) 第9回文化書道千葉県連合会公募展覧会 (9/14～9/19)
9	9.11 特別展 絵地図の魅力展	・七宝焼入門(1期) (9月) ・書芸入門 (9月～1月) ・デッサン入門(3期)(9月) ・美術講演会 (9/26)	千葉82展 (9/21～9/26) 第14回ファンシー展 (9/28～10/3) 第29回千葉県勤労者美術展 (9/28～10/3) 第2回二科会写真部千葉支部展 (9/28～10/3) 千葉デザイン展 (9/28～10/3)
	9.21 第6回移動美術館 (佐倉市中央公民館)		

月	本館企画の展覧会	普及事業	団体展
10	10.3 10.6 10.13 第6回移動美術館 (柏市中央公民館) 10.19	・美術を語る会(4) (10/9) ・彫塑入門 (10月) ・洋画入門(2期) (10月～12月) ・日本画入門(2期) (10月)	第25回千葉市小・中・養護学校児童・生徒 作品総合展覧会 (10/5～10/13) 第34回県展 (10/23～11/14)
11		・てん刻入門(2期) (11月) ・洋画研修(3期) (11月～12月) ・陶芸入門(2期) (11月～12月)	千葉県高等学校総合芸術祭(書道・美術・ 工芸展) (11/18～11/28) 千葉県写真展 (11/18～11/28) あらはれ 今日の美術を考える会 (11/30～12/5)
12	12.3 常設 収蔵作品展		第27回こども県展 (12/7～12/19) 刻字千葉展 (12/21～12/25)
1	1.16 1.21 特別展 金工の世界	・美術講演会 (1/23) ・七宝焼入門(2期) (1月)	第18回登龍社・宮坂会書初展 (1/5～1/9) 第11回千葉県大学美術連盟展 (1/5～1/9) 群鷗書人展 (1/11～1/16) 千葉展 (1/18～1/30)
2	2.24	・美術を語る会(5) (2/5) ・書芸研修 (2月)	第35回千葉県小中高校書初展覧会(2/1～2/6) 親子絵画展 (2/8～2/13) 千葉大学教育学部美術科卒業制作展 (2/8～2/13) 千葉大学生書道展 (2/8～2/13) 第6回唱和会書展 (2/15～2/20) 幕張北高校書道コース卒業制作展 (2/15～2/20) 第8回千葉県民写真展 (2/15～2/27) 葉美会展 (2/15～2/27) 子ども造形展 (2/22～2/27) 雁鴻会展 (2/22～2/27)
3	3.2 常設 収蔵作品展 3.31	※講座内容・日程等につい ては、直接館にお問い合わせ ください。	第14回千葉市民美術展覧会 (3/1～3/21) 第30回書星教育部展 (3/23～3/27)

利用状況

昭和57年度入館者一覧表

種 別 月	開館 日数	個 人			団 体						人 数 合 計	備 考	
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生				
					人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数			
4	26	4,348	201	925	46	2	274	4	355	6	6,149		
5	26	9,357	268	2,783	165	4	34	1	0	0	12,607		
6	26	7,345	215	956	307	10	0	0	82	2	8,905		
7	27	7,109	293	1,270	286	9	0	0	55	2	9,013		
8	26	7,241	435	2,091	226	4	0	0	197	6	10,190		
9	26	8,932	595	2,996	139	4	250	1	0	0	12,912	特別展 絵地図 の魅力	
10	19	13,154	3,858	11,536	164	5	537	4	1,088	12	30,337		
11	23	10,922	4,376	4,233	678	20	343	4	797	6	21,349		
12	22	6,374	151	3,612	684	23	0	0	293	7	11,114		
1	23	4,891	433	1,287	67	2	0	0	205	2	6,883	特別展 金工の 世界	
2	24	7,250	631	4,434	974	15	0	0	341	3	13,630		
3	27	9,394	395	3,388	644	17	0	0	185	4	14,006		
計	295	96,317	11,851	39,511	4,380	115	1,438	14	3,598	50	157,095		
累計	2,418	1,186,996	開館以来										

地域別入館者状況

種 別 月	開館 日数	県 内		県 外		その他
		千葉市（人）	その他の県内(人)	東京都（人）	その他の県外(人)	
4	26	3,319	2,360	229	228	13
5	26	7,661	4,349	367	222	8
6	26	4,700	3,645	408	143	9
7	27	4,984	3,357	421	247	4
8	26	5,562	4,133	253	238	4
9	26	6,387	5,928	301	280	16
10	19	25,948	4,126	109	137	17
11	23	10,262	10,671	213	199	4
12	22	3,297	7,588	123	100	6
1	23	3,094	3,465	205	119	0
2	24	9,309	4,047	181	91	2
3	27	9,304	4,221	212	263	6
計	295	93,827	57,890	3,022	2,267	89
累計		151,717		5,289		89

日誌抄

- | | | | |
|-------|--|--------|--------------------------------|
| 4月22日 | 文部省から20名来館 | 9月27日 | 文部省教科書管理課長来館 |
| 23 | 愛知県文化会館企画課長来館 | 10月3日 | 国立国会図書館から来館 |
| 28 | 埼玉県立美術館開設準備室から来館
友の会理事会、評議員会 | 6 | 千葉県移動美術館（柏市19日まで） |
| 5月1日 | 臼井日出男衆議院議員来館 | 9 | 第4回美術を語る会 |
| 13 | 宮崎県教育委員会から来館 | 10 | 日本地図資料協会から来館
神奈川県立近代美術館から来館 |
| 15 | 第1回美術を語る会 | 13 | 国立歴史民俗博物館から来館 |
| 23 | 三笠宮崇仁殿下来館 | 26 | 熊本県立美術館から来館 |
| 27 | 鳩川誠一展始まる（6月17日まで）
沼田県知事鳩川誠一展を観覧 | 11月19日 | 山梨県立美術館より来館 |
| 6月5日 | 第2回美術を語る会 | 25 | 千葉県教育委員視察 |
| 11 | 美術館研究員会議 | 12月2日 | 愛知県美術館長来館 |
| 12 | 仙台市博物館拡大委員来館 | 8 | 美術館協議会 |
| 13 | 友の会美術鑑賞の旅 | 14 | 展示室利用に伴う調整会議 |
| 17 | 千葉県博物館協会役員・会総会 | 1月14日 | 横浜市市民局市民文化室から来館 |
| 7月2日 | 美術館協議会 | 18 | 特別展「金工の世界」始まる（2月24日まで） |
| 18 | 県立図書館長来館 | 22 | 友の会理事会 |
| 22 | 法務省人権擁護局長、呉市立美術館長来館
中西利雄展始まる（8月19日まで） | 23 | 第2回美術講演会 講師 香取忠彦氏 |
| 30 | 美術館夏季大学開催（31日まで） | 28 | 美術館資料審査委員会 |
| 8月7日 | 第3回美術を語る会 | 2月6日 | 第5回美術を語る会 |
| 21 | 国立教育会館長、大臣官房総務課、国立科学博物館、県教育次長来館 | 9 | 長野県信濃美術館から来館 |
| 9月10日 | 美術館資料審査委員会 | 16 | 京都市美術館から来館 |
| 11 | 特別展「絵地図の魅力」始まる（10月13日まで） | 17 | 京都国立近代美術館から来館 |
| 14 | 県教育長来館 | 18 | 美術館研究員会議 |
| 21 | 千葉県移動美術館（佐倉市10月3日まで） | 19 | 沼田県知事特別展を観覧 |
| 26 | 第1回美術講演会 講師・朝倉治彦氏 | 24 | 美術館協議会 |
| | | 3月1日 | 名古屋市博物館から来館 |
| | | 8 | 伊東市教育委員会から来館 |

関係令規

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

目 的

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

（休館日）

第3条 館の休館日は、次のとおりとする

一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）

二 国民の祝日に関する法律に規定する日

三 年始休館日 1月1日から1月4日まで

四 年末休館日 12月26日から12月31日まで

五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することができる。

（入館の制限）

第4条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

一 特別展覧会を観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しないもの

二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者

三 でい酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

（観覧券等）

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第2号様式）により、館長に申し込まなければならない。（禁止行為）

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、

墨汁類を使用すること。

二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。

三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。

四 その他他の入館者の妨げになるような行為をすること。

（損害の賠償）

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることができる。

（委 任）

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附 則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

（趣 旨）

第1条 県が徴収する使用料及び手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

（使用料等の徴収）

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

（種類及び額）

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は別表第一に掲げるとおりとする。

（中 略）

別表第一抜粋

財 産 又 は 事務の種類	手数料	区 分	単 位	額
博 物 館	入場料	特別展覧会	1人1回 に つ き	500円 以内

3. 展示室使用料

昭和56年4月1日千葉県教育委員会指令第116号

1. 千葉県立美術館展示室等の使用料については、使用料及び手数料条例第5条第3項に基づき減免することとし、当分の間次表のとりの額とする。

区分	室名	面積	使用料 (午前9時から午後5時まで)	
			観覧料無料、 物品を販売しない場合 (減免率3分の2)	観覧料有料又は 物品を販売する場合 (減免率3分の1)
展示棟	第一展示室	438㎡	5,500円	11,000円
	第二展示室	400㎡	5,000円	10,000円
	第三展示室	469㎡	6,000円	12,000円
	第四展示室	403㎡	5,500円	11,000円
	第五展示室	824㎡	11,000円	22,000円
	第六展示室	330㎡	4,500円	9,000円
	第七展示室	567㎡	7,500円	15,000円
県民エントランス棟	全展示室	3,431㎡	43,000円	86,000円
	講堂	259㎡	4,500円	9,000円
	研修室	75㎡	1,500円	3,000円

ただし、県及び県教育委員会が共催する場合並びに国又は他の地方公共団体の主催ないし共催する行事に係る使用の場合は無料とし、県教育委員会が特に教育的、文化的意義を認め後援する行事に係る使用の場合は上記の半額とする。

2. 千葉県立美術館展示室等の使用の許可に関する取扱いは、別紙「千葉県立美術館展示室等の使用許可に関する取扱要綱」によるものとする。

●千葉県立美術館友の会会則

(名称)

第1条 本会は、千葉県立美術館友の会という。(略称、葉美会)

(事務所)

第2条 本会は、事務局を千葉県立美術館内におく。

(目的)

第3条 本会は、千葉県立美術館(以下「館」という。)の活動に協力し、楽しいふんい気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深めることを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業をおこなう。

- 1 館の展覧会の見学鑑賞
- 2 講演会、講習会、研究会等
- 3 館外見学会
- 4 機関紙等の編集刊行
- 5 その他目的達成に必要な事業

(会員)

第5条 本会は、会の目的に賛同するものをもって組織する。

1. 会員には次の特典がある。

- ①館の主催又は共催による展覧会観覧の優待
- ②美術館報「みる・かたる・つくる」ならびに友の会機関紙の配布
- ③本会発行の図録等の配布及び割引購入
- ④本会事業への参加

2. 本会活動に協力し、賛助会費を納めたものは賛助会員とする。
(会員の加入・退会)

第6条 本会に加入する場合は申込書に入会金(500円)を添えて事務局に提出し、会員証の交付を受ける。退会の際は退会届を提出する。

(役員)

第7条 本会に次の役員をおく。

- 会長1名 副会長3名(ただし内1名は美術館長があたる)
理事 若干名 事務局長1名 監事3名 評議員 若干名
1. 会長・副会長・理事・事務局長・監事の選出は評議員会において推挙する。

2. 役員の任期は2年とする。ただし再任は防げない。

(役員等の任務)

第8条 本会の役員等の任務は次のとおりとする。

1. 会長は本会を代表して会務を総理し、会議を召集し、その議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。
3. 理事は会の運営にあたる。
4. 事務局長は会務を処理する。
5. 監事は本会会計の監査をする。

(顧問・名誉会員)

第9条 この会に顧問及び名誉会員をおくことができる。名誉会員は評議員会で推挙する。

(支部)

第10条 地域、並びに職域ごとに20名以上の会員を有する場合は支部をおく。

(評議員会)

第11条 各支部より20名につき1名の制で推せんされた代表と賛助会員及び講座代表をもって評議員会を構成する。評議員会は毎年1回以上開き、事業計画、予算、役員の決定その他の重要方針を決議する。

(会費)

第12条 本会の普通会員は毎年度当初に年額1500円の会費を納入する。

(経費)

第13条 本会の経費は会費、寄附金、事業収益金、その他の収入をもってあてる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日におわる。

(職員)

第15条 本会の事務職員は館に勤務する者以外から、会長が委嘱する。

(付則)

1. 本会の会則は評議員会で出席者の過半数の同意を得なければ変更することができない。
2. 本会則は昭和50年6月28日より施行する。

●昭和51年5月29日一部改正 ●昭和52年4月21日一部改正

●昭和53年4月22日一部改正 ●昭和54年4月28日一部改正

●昭和56年4月28日一部改正

昭和58年度展覧会事業計画

常設展

常設 収蔵作品展

会期 4月1日～8月28日

12月1日～12月25日

内容 本館収蔵作品を明治以降の日本美術の流れに沿って紹介するほか、各種コーナーを設け、多面的な展示をはかる。

特別展

日本の洋画とフランス

会期 9月3日～10月12日

内容 明治から大正にかけて、フランスに留学した洋画家に焦点をあて、日本近代洋画の発展に大きな役割を果たした彼らのフランスとのかかわりを追い求める。

浅井忠記念賞展

会期 1月21日～2月22日

内容 本館の開設10年を記念し、近代日本洋画の先駆者で本県出身の浅井忠の主要作品を展示するとともに、全国公募による入選作品を公開し、近代及び現代美術の理解鑑賞の機会とする。

昭和58年度職員

館長 高橋在久
副館長 平野馨

庶務課

主査 内山昭氏
副主査 忍足正雄
主任主事 菅井富美子
主事 一杉徹
主任運転手 篠原恒雄
主任用務員 長島則子

学芸課

主査兼課長 高橋瑛

企画展

浅見喜舟展

—書芸70年の歩み—

会期 7月1日～7月28日

内容 千葉県美術協会会長、書星会理事長として活躍し、日本の書芸振興と教育に尽力している浅見喜舟氏の書芸70年の歩みをたどる。

第7回千葉県移動美術館

会期 9月20日～10月5日
(八街町中央公民館)

10月8日～10月23日
(四街道市立旭公民館)

内容 本館収蔵作品の鑑賞の機会を広く県民に拡大するとともに、本館を紹介し、地域文化の振興に寄与するため、県内2か所の会場で美術展覧会を行う。

主査 久保木 良
副主査 加曾利 和夫
文化財主事 鈴木 喜久夫
学芸員 小野 禮子
" 米田 耕司
" 大久保 守
" 藤川 正司
" 前川 公秀
主事 武内 喜美子
学芸員 山内 章子
" 小泉 幸代
非常勤嘱託 足立 堯

利 用 案 内

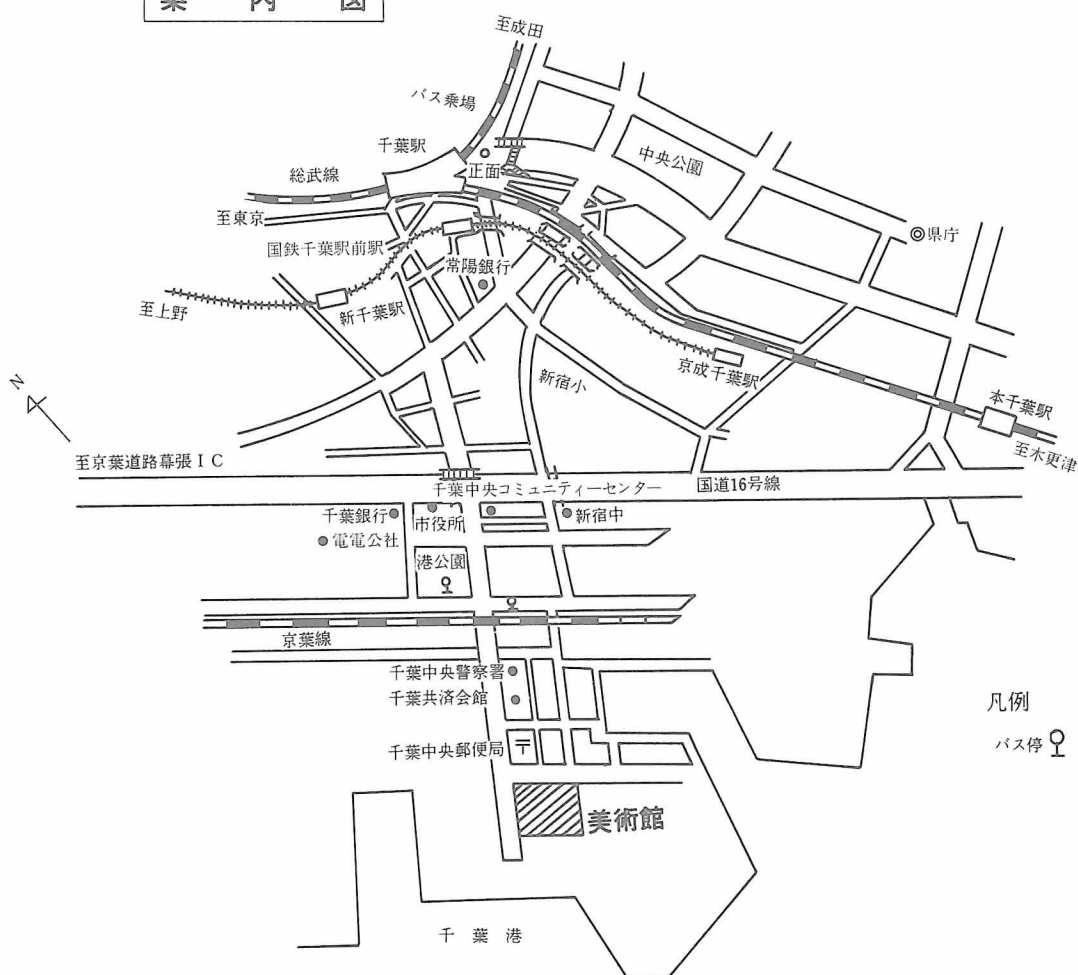
- 開館時間** 午前9時より午後4時30分まで
- 休 館 日**
- ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
 - ・年末年始（12月26日～1月4日）
 - ・展示替等のため、必要があるとき。
- 入 場 料**
- ・無料（ただし、特別展は有料）
- 団体観覧**
- ・団体で来館されるとき、あらかじめご連絡あれば作品等の解説をします。

交 通 案 内

国鉄千葉駅前バス停③④番より「千葉市役所行」小湊、京成、中央各バスで終点下車、徒歩約10分・⑦番「新港行」小湊、京成バスで中央署前下車、徒歩約6分

※日曜・祝日に限りそごうデパート前⑨番より美術館行きバスが運行されています。

案 内 図



みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報（昭和57年度）

発行 千葉県立美術館

〒260 千葉市中央港1-10-1

TEL 0472 (42) 8311

印刷 有限会社 正文社
